

(1) HIV陽性者の生活と社会参加に関する研究

研究分担者：若林チヒロ(埼玉県立大学 健康開発学科健康行動科学専攻)

研究代表者：樽井 正義(特定非営利活動法人ぶれいす東京)

研究協力者：遠藤 知之、渡部 恵子、武内 阿味(北海道大学病院)

伊藤 俊広、佐々木 晃子(独立行政法人国立病院機構仙台医療センター)

茂呂 寛、川口 玲、井越 由美枝(新潟大学医歯学総合病院)

田沼 順子、青木 孝弘、池田 和子、杉野 祐子、谷口 紅

(独立行政法人国立国際医療研究センター エイズ治療・研究開発センター)

根岸 昌功(根岸診療所)

山中 晃(新宿東口クリニック)

渡邊 珠代、高山 次代(石川県立中央病院)

横幕 能行、今橋 真弓、三輪 紀子(独立行政法人国立病院機構名古屋医療センター)

渡邊 大、上平 朝子、中濱 智子、東 政美、米田 奈津子、富田 亜沙美、佐井 木梨花、岡本 学

(独立行政法人国立病院機構大阪医療センター)

藤井 輝久、宮原 明美(広島大学病院)

大木 幸子(杏林大学 保健学部)

大島 岳(一橋大学大学院)

齊藤 可夏子(東京工業大学 環境・社会理工学院)

林 神奈(Simon Fraser University, Faculty of Health Sciences)

山口 正純(武南病院)

生島 嗣、大槻 知子、三輪 岳史(特定非営利活動法人ぶれいす東京)

研究要旨

HIV 感染症は医療の進歩による余命の延伸に伴い、地域や職場での健康管理と社会生活が一層重要となっている。本研究では、HIV 陽性者自身や臨床・行政・職場・学校・地域の人々が、HIV 感染症を伴う生活をよりよく理解したり、生活環境を整えたりするための基礎資料を作成する目的で、2003 年より約 5 年毎に「HIV 陽性者の健康と生活に関する全国調査」を実施している。今回 2019-2020 年度にかけて実施した第 4 回調査の結果を報告する。

方法は、各医療機関の医療者から、無記名の自記式質問紙を配布、郵送にて回収する方法とした。エイズ治療・研究開発センターと、各地域のエイズ治療ブロック拠点病院の HIV 陽性者を対象とした A 調査(8 医療機関、1930 票配布、1185 回収、回収率 61.4%)、都内の HIV 専門クリニックの陽性者を対象とした B 調査(2 医療機関、625 票配布、358 票回収、回収率 57.3%)を実施した。HIV 専門クリニックは、都内 2 機関の協力により今回はじめて対象とした。

調査項目は、就労、人間関係、生計、障害者手帳等制度、健康行動、薬物・ドラッグ、政策評価といった第 3 回までの調査項目に加えて、新たに HIV 情報、高齢期への対応、受診中断や服薬行動などを追加した。

本研究は 5 年毎に実施しており、前回調査までは健康関連の項目では改善がみられるが、社会生活面ではほぼ変化がないという結果であったが、今回はじめて、恋愛や結婚などの人間関係や社会生活上の制約感の軽減がみられた。ただし精神健康度については変化がなく、問題をもつ人の割合が高かった。就労関連の項目でも変化はみられなかった。

クリニック調査は、大部分が MSM で、若年層の割合が大きいという属性の違いが、ブロック調査との違いに関連していると推察されるが、拠点病院と同レベルの割合でメンタルヘルスや社会生活の問題をもつ人がいることから、これらへの何らかの支援体制が必要ではないかと考えられた。

A 研究目的

HIV 感染症は医療の進歩による余命の延伸に伴い、地域や職場での健康管理と社会生活が一層重要となっている。本研究では、陽性者自身や臨床・行政・職場・学校・地域の人々が、HIV 感染症を伴う生活をよりよく理解したり、生活環境を整えたりするための基礎資料を作成する目的で、2003 年より約 5 年毎に「HIV 陽性者の健康と生活に関する全国調査」を実施している。今回 2019-2020 年度にかけて実施した第 4 回調査の結果を報告する。

B 研究方法

本調査は、2003 年より 5 年毎に実施しており、今回は第 4 回目の調査である。ACC とブロック拠点病院の受診者を対象とした A 調査、HIV 専門の診療所の受診者を対象とした B 調査の 2 つの調査を実施した。

A 調査 + B 調査：2019～2020 年度 10 医療機関 1543 名

【方法】各医療機関の受診 HIV 陽性者を対象に、無記名の自己記入式質問紙を医療者から配布。同封の返信用封筒にて、HIV 陽性者自身が調査事務局に郵送する方法とした。謝礼として 500 円のクオカードを同封した。依頼配布数は、各医療機関の受診患者数からなるべく一定割合としたが、各医療機関の状況を考慮して調整した。依頼配布数が終了するまで配布する方法とした。外来順に無作為で配布して頂いたが、健康状態等で依頼困難な人、調査票の日本語読解が困難な人は対象外とした。

【配布・回収】A 調査と B 調査を合わせて 2555 票配布、1543 票回収、回収率 60.4%。

【調査項目】調査項目一覧は、後述資料に示した。今回追加した項目として、U=U、PrEP 等の HIV 情報の有無、受診中断や服薬アドヒアランス、高齢期への意識と行動、属性に婚姻と合わせて同性パートナーシップ登録の有無を追加した。

【倫理審査】埼玉県立大学倫理委員会(NO.30101 号)とブロック拠点病院の各医療機関の倫理委員会の承認を受けた。

表 1.1 調査種別、配布・回収

	対象機関	配布数	回収数	回収率 %
A 調査	ACC/ ブロック拠点病院	1930	1185	61.4
B 調査	診療所	625	358	57.3
全体		2555	1543	60.4

A 調査：ACC とブロック拠点病院調査 8 医療機関 1185 名

【配布・回収】1,930 票配布、1,185 票回収(回収率 61.4%)

対象者数は、各病院の実施体制等を考慮して、受診患者数の一定割合で算出して配布数を確定した。

【調査期間】2019 年 9 月～2020 年 3 月

【対象病院】ACC と全国の各地域ブロック(九州ブロックを除く)の計 8 病院。地域内に複数のブロック拠点病院が指定されている場合は、受診患者数が最も多い病院を対象とした。

B 調査：診療所調査 2 医療機関 358 名

【配布・回収】625 票配布、358 票回収(回収率 57.3%)

対象者数は、各医療機関の受診患者数と配布可能数を考慮して配布数を確定した。

【調査期間】2019 年 12 月～2020 年 5 月

【対象病院】HIV 感染症を専門としている東京都内の診療所。

【参考】第1～3回調査の概要

第1回調査：2003年度 5病院 566名

ACC、ブロック拠点病院、中核拠点病院(北海道・東京2・大阪・九州)

配布754票、回収566票(回収率72.3%)

第2回調査：2008年度 33病院 1,203名

ACC、ブロック拠点病院、中核拠点病院33病院。

配布1,813票、回収1,203票(回収率66.4%)

第3回調査：2013～2014年度 31病院 1,469名

【A調査】

ブロック拠点病院とACC調査 9病院 1,100名

配布1,786票、回収1,100票(回収率61.6%)

【B調査】

中核拠点病院等調査 22病院 369名

配布687票、回収369票(回収率53.7%)

C 研究結果

別添資料にて、A調査とB調査を合わせたデータ(2021年3月末集計値)の単純集計結果と自由回答を示した。(2555票配布、1543票回収、回収率60.4%)。

集計表は、複数回答の質問は、対象者全体の人数を最下段の合計欄に記載した。副問の質問(主問の該当者のみが対象)は、全数1543名を対象とした結果と、主問の該当者のみを対象とした結果とを示した。

自由回答は4項目、「差別経験」、「高齢期の生活への備え」、「薬物・ドラッグ」、「他の陽性者や人々へのメッセージ」について、内容を分類し、いくつかの回答を抜粋して示した。

D 考察

1. 前回調査と今回調査との比較

今回の調査結果を5年前に実施した前回調査の結果と比較するため、ブロック拠点病院調査の結果のみを集計して比較した結果を観察する。別添で示した単純集計結果はA調査とB調査を合計した結果であり、ここで検討する数値とは異なることに留意して頂きたい。

2. ブロック拠点病院調査と診療所調査の違いについて

本報告書ではA、B両調査を合計した集計結果を示したが、各調査の特徴について概観したところ、診療所で特徴的な結果は、基本的属性の違いによるものが大きいと推察された。下記に、基本的属性についてA調査とB調査の違いを記載しておく。ただし、診療所調査は対象とした2医療機関間の基本的属性の違いもあり、今後、丁寧な分析と解釈が必要ではある。

- **年齢層**：診療所調査の対象者では20-39歳代が39.1%を占めており、ブロック拠点病院と比べて若年層に分布している。このことは、とくにHIV感染症以外の健康状態や、就労などの社会活動や、高齢化への対処など社会生活面での意識と行動の違いを生じさせていると考えられる。

- **感染経路**：診療所調査では感染経路は92.4%が同性間の性的接触(両性間を含む)であった。ブロック拠点病院調査では、同性間は78.6%で、異性間(10.5%)や薬害被害者(6.0%)など多様な感染経路の人を含んでいる。

- **居住地**：診療所調査は都内の施設で実施したため、対象者の居住地は首都圏4都県が90%を占めた。全国の地方都市を多く含むブロック拠点病院との違いは、とくに社会生活面では多く生じると考えられる。

表 1.2 調査種別、対象者の年齢階級

	N	20-39歳	40-59歳	60歳-	計
ブロック拠点病院調査	1145	21.7%	62.5%	15.7%	100.0%
診療所調査	343	39.1%	56.3%	4.7%	100.0%
合計	1488	25.7%	61.1%	13.2%	100.0%

3. 薬物・ドラッグについて

薬物については、前回調査と質問形式が変更されており単純な比較はできないので、比較可能な形式に形式を加工した表を下記に示した。

1) ブロック拠点病院(2013-14)とブロック拠点病院(2019-20)との比較

「この1年間の使用」については、「危険ドラッグ」(4.8%→0.6%)と「ラッシュ」(10.0%→4.4%)が低

表 1.3 調査種別、薬物・ドラッグの使用状況

		該当薬物の使用経験あり			主問では経験ありだが、該当薬物は経験なし	主問で薬物経験なし(注)	合計
		小計	この1年に使用	1年以上前/過去に使用			
a. 危険(脱法)ドラッグ	ブロック 2013-14	187	52	135	409	487	1083
		17.3	4.8	12.5	37.8	45.0	100.0
	ブロック 2019-20	166	7	159	325	660	1151
		14.4	0.6	13.8	28.2	57.3	100.0
	診療所 2020	63	1	62	121	166	350
		18.0	0.3	17.7	34.6	47.4	100.0
b. 5MeO - DIPT	ブロック 2013-14	277	5	272	319	487	1083
		25.6	0.5	25.1	29.5	45.0	100.0
	ブロック 2019-20	255	3	252	242	660	1157
		22.0	0.3	21.8	20.9	57.0	100.0
	診療所 2020	89	0	89	95	166	350
		25.4	0.0	25.4	27.1	47.4	100.0
c. ラッシュ	ブロック 2013-14	554	108	446	42	487	1083
		51.2	10.0	41.2	3.9	45.0	100.0
	ブロック 2019-20	477	51	426	22	660	1159
		41.2	4.4	36.8	1.9	56.9	100.0
	診療所 2020	181	20	161	7	166	354
		51.1	5.6	45.5	2.0	46.9	100.0
d. ガス	ブロック 2013-14	108	9	99	488	487	1083
		10.0	0.8	9.1	45.1	45.0	100.0
	ブロック 2019-20	115	13	102	377	660	1152
		10.0	1.1	8.9	32.7	57.3	100.0
	診療所 2020	38	1	37	144	166	348
		10.9	0.3	10.6	41.4	47.7	100.0
e. 大麻	ブロック 2013-14	102	4	98	494	487	1083
		9.4	0.4	9.0	45.6	45.0	100.0
	ブロック 2019-20	104	7	97	391	660	1155
		9.0	0.6	8.4	33.9	57.1	100.0
	診療所 2020	42	3	39	142	166	350
		12.0	0.9	11.1	40.6	47.4	100.0
f. 覚せい剤	ブロック 2013-14	120	25	95	476	487	1083
		11.1	2.3	8.8	44.0	45.0	100.0
	ブロック 2019-20	152	36	116	346	660	1158
		13.1	3.1	10.0	29.9	57.0	100.0
	診療所 2020	59	15	44	128	166	353
		16.7	4.2	12.5	36.3	47.0	100.0
g. MDMA	ブロック 2013-14	61	4	57	535	487	1083
		5.6	0.4	5.3	49.4	45.0	100.0
	ブロック 2019-20	60	3	57	427	660	1147
		5.2	0.3	5.0	37.2	57.5	100.0
	診療所 2020	28	1	27	156	166	350
		8.0	0.3	7.7	44.6	47.4	100.0

注) 「主問で薬物経験なし」は、第3回と第4回調査では、副問で挙げた薬物の種類が異なるため、この表では単純な比較はできない。

下していた。「該当薬物の使用経験あり(小計)」については、「ラッシュ」(51.2%→41.2%)は10.0ポイント低下していたが、その他は「危険ドラッグ」(17.3%→14.4%)、「5MeO-DIPT」(25.6%→22.0%)が若干低下傾向がみられたが、それ以外の薬物については変化はなかった。

2) ブロック拠点病院(2019-20)と診療所(2020)の比較

「この1年間の使用」はいずれの薬物についても顕著な差はなかった。「使用経験あり」は、「ラッシュ」(ブロック41.2%、診療所51.1%)は診療所の方が10ポイント近く高く、「危険ドラッグ」(ブロック14.4%、診療所18.0%)、「覚せい剤」(ブロック13.1%、診療所16.7%)、「5MeO-DIPT」(ブロック22.0%、診療所25.4%)など若干だが診療所調査の方が高かった。これらの差は両機関の対象者の基本的属性(感染経路や年齢層)の違いによる可能性はある。

3) 覚せい剤について

この1年間の薬物の使用率は、前回よりも今回の方がやや低下ないし変化なかったものが多かったが、覚せい剤だけは0.8ポイントと極わずかだが増加していた。自由回答においては、「RUSHが違法となり入手しづらくなってから、覚醒剤の使用者が増えた様に思う。RUSHよりも覚醒剤の方が入手しやすいんだと思います。」「5meO やラッシュを規制した事で覚せい剤に手を出す人が圧倒的に増えた。周囲でも皆そう言っている。」といった、法規制を強めたことが覚せい剤に転換しているという指摘もある。この点は、詳細な分析が必要である。

4. 社会生活での制約感について

第3回調査までの結果では、健康状態や健康管理の負担については軽減されている一方で、人間関係や社会活動といった社会生活面ではほとんど変化、改善がなかった。しかし、今回の第4回調査では、性生活や恋愛、結婚、人間関係に関連した項目で改善がみられた。

たとえば、下記表に示したように、病気や障がいをもって生活する上での制約感について尋ねた項目では、「性生活」、「結婚すること」、「子をもつこと」について制約感を感じる人の割合は前回調査と比べて軽減されていた。人間関係では、「恋人との関係や出会い」、「家族や親せき」、「友人」について制約感が低減する傾向がみられた。一方、「現在の働き方や学校生活」、「将来の働き方や進路、職業選択」についてはほぼ変化が

なかった。

今後の詳細な分析が必要ではあるが、この調査項目に限らず、恋愛関連やパートナーとの人間関係、性生活に関連する質問項目では改善している傾向が伺われたが、就労など社会活動の実態には変化がみられていない。背景には、PrEPの普及、U=U等の情報の広まり、LGBTへの社会的認知等があるのかもしれない。

今回調査のブロック調査と診療所調査の比較では、「生活習慣」、「外出や行動範囲」、「現在の働き方や学校生活」、「地域の人との関係」は診療所調査の方が統計的にも有意に制約感が低かった。これらは、両者の基本的属性や居住地による違いが背景にあるのではないかと考えられた。

表 1.4 病気や障がいをもって生活する上で、制約を受けたり、自分で制約していると感じること

	N	かなり制約あり	少し制約あり	ほとんど制約はない	まったく制約はない	合計	
a. 生活習慣（食事・喫煙・飲酒など）	ブロック 2013-14	1077	6.9	30.7	24.6	37.8	100
	ブロック 2019-20	1171	2.9	23.4	29.8	43.9	100
	診療所 2020	356	1.1	15.7	29.2	53.9	100
b. 外出や行動の範囲	ブロック 2013-14	1072	4.7	18.6	27.6	49.2	100
	ブロック 2019-20	1174	3.8	14.3	30.6	51.3	100
	診療所 2020	356	2.2	7.3	28.9	61.5	100
c. 現在の働き方や学校生活	ブロック 2013-14	1033	6.9	19.2	27.8	46.2	100
	ブロック 2019-20	1149	6.9	17.6	28.5	47.0	100
	診療所 2020	353	5.1	14.4	24.1	56.4	100
d. 将来の働き方や進路、職業選択	ブロック 2013-14	1045	13.4	27.1	23.5	36.0	100
	ブロック 2019-20	1149	12.7	25.4	23.5	38.4	100
	診療所 2020	355	12.7	22.5	20.6	44.2	100
e. 家族や親戚との関係	ブロック 2013-14	1064	12.3	21.4	26.0	40.2	100
	ブロック 2019-20	1166	8.8	17.9	29.0	44.3	100
	診療所 2020	356	9.0	16.0	28.7	46.3	100
f. 友人との関係	ブロック 2013-14	1521	8.5	20.2	30.5	40.8	100
	ブロック 2019-20	1165	6.0	18.4	31.8	43.9	100
	診療所 2020	356	6.5	16.6	29.8	47.2	100
g. 恋人との関係や出会い	ブロック 2013-14	1020	34.8	26.1	15.1	24.0	100
	ブロック 2019-20	1142	25.0	24.2	18.9	32.0	100
	診療所 2020	353	29.7	27.2	15.0	28.0	100
j. 性生活	ブロック 2013-14	1051	53.6	27.4	8.0	11.0	100
	ブロック 2019-20	1150	34.0	31.4	14.9	19.7	100
	診療所 2020	352	33.5	33.8	14.5	18.2	100
k. 結婚すること	ブロック 2013-14	960	56.8	8.3	6.3	28.6	100
	ブロック 2019-20	1100	37.0	10.8	11.5	40.7	100
	診療所 2020	345	36.2	9.6	12.5	41.7	100
l. 子を持つこと	ブロック 2013-14	965	64.2	6.6	3.6	25.5	100
	ブロック 2019-20	1100	41.5	10.5	10.1	38.0	100
	診療所 2020	346	42.2	8.7	9.5	39.6	100

5. メンタルヘルス(K6)

精神健康の状態をK6尺度の値でみると、ブロック調査については前回と今回でほぼ変化がなかった。上述した「社会生活での制約感」については改善傾向がみられたが、精神健康度には改善がみられず、うつや不安障害が懸念される5点以上/13点以上の割合は、高いままであった。

表 1.5 調査種別メンタルヘルス(K6)

	N	0～4点	5～12点	13～24点	合計
ブロック 2013-14	1065	54.8	32.6	12.6	100.0
ブロック 2019-20	1174	53.5	34.2	12.3	100.0
診療所 2020	356	49.2	38.5	12.4	100.0

注) K6 尺度は、うつ病・不安障害などの精神疾患をスクリーニングすることを目的に開発され、一般住民対象には心理的ストレスを含む精神的な問題の程度を表す指標として、厚生労働省「国民健康生活基礎調査」等で使用されている。6つの質問に5段階で回答し合計0-24点。合計値が高いほど精神的な問題が重い可能性がある。

6. 高齢期の生活について

今回調査では、新たに高齢期の生活に関連した項目を追加したので、結果を概観しておく。5年毎に調査を実施する毎に65歳以上の割合は高まっており、今後、居住地域での介護サービスの必要性は高まることは必至であろう。

世帯構造をみると、単身世帯が47.1%を占めており、配偶者との同居は14.2%、パートナーとの同居は16.1%であった。一般に疾患や障がいを持つ人の介護は、家族が支援を期待される場合が多いが、日本のHIV陽性者の場合には単身世帯および未婚者の割合が多いため、必ずしも家族介護を期待できない人も多い。

「将来介護が必要になったら誰に介護をしてもらいたいか」という質問では、「介護サービスの人」が43.9%と最も多く、次いで「配偶者やパートナー」33.1%で、「きょうだい」5.2%、「子ども」3.6%であった。「いずれにも頼らない」という回答も25.6%を占めた。しかし一方で、「友人・知人」が5.0%もあり、自由回答には「ゲイ専門の老人ホーム」への入居を挙げた人も少なからずおり、高齢化に対応したMSMコミュニティの機能が期待できるのかもしれない。

「介護サービス利用にあたり心配なこと」は、79.4%の人が「費用」を挙げた人がもっとも多かった。「サービス提供者のHIVに関する理解」50.8%、「HIV感染症治療へのアクセス」40.8%、「個人情報・プライバ

シー」35.4%など、HIV感染症に特有の懸念を挙げた人も多かった。

「高齢期に介護が必要になった場合の備えをしている」という人は24.2%で、この値は中高年世代でも必ずしも高くなかった。現状では介護関連のサービスを利用している人は3.2%とわずかであったが、今後は増加することは必至である。

7. 結果解釈の留意点と今後の方法上の課題

1) 本人申告による健康関連の回答

検査値や疾病関連の項目は陽性者の自己申告であり、HIV/AIDS関連の検査値やエイズ発症の有無、疾患名などの健康関連の回答には、記憶違い、認識違いにより回答されている場合もある。「わからない」という回答も、CD4細胞数は4.1%、ウイルス量は5.7%、AIDS発症の有無は4.3%みられた。今後、診療情報と連結した調査にも意味がある。ただし、社会活動や生活意識に関しては、患者は医療者の意向に沿って回答する傾向があり、回答バイアスがかかる可能性もある。

2) 対象外の医療機関や対象者

- ・今回のブロック拠点病院調査では、対象外となった九州地域・沖縄県の状況は含まれていない。
- ・診療所調査は2機関を対象としたが、診療所別に属性(年齢層、感染経路、感染判明年、居住地など)に違いがある点に注意する必要がある。
- ・中核拠点病院、一般拠点病院、一般病院は含まれていない。前回の第3回調査では中核拠点病院の陽性者は、年齢層、エイズ発症者の割合、発症して感染判明した人の割合などがブロック拠点病院と比べてやや高いという特徴があった。
- ・本調査は医療機関経由で実施しており、感染判明しても受診していない人や、受診中断している人は対象外である。

3) 日本語の読解不可の対象者、外国籍の対象者

本調査では調査票レベルの日本語読解が難しい場合は対象外とした。結果、外国籍の方はブロック拠点病院調査では1.2%、診療所調査では3.7%しかいなかった。外国人には、独特の生活課題、社会背景もあるため、今後は多言語で回答できる調査票が必要である。

4) ネット調査

本調査は紙の質問紙を用いているが、ネット調査のメリットもある。ただし、本調査では、60歳以上の人の35.8%は、インターネットやSNSなどを「利用していない」としており、ネット調査では高齢者の実態や意見が反映されにくい点は懸念され、工夫が必要である

5) 縦断調査

本調査は、健康状態と社会生活の両面を同時に調査しており、双方の関連を検討できる点は長所である。ただし、横断調査であり因果関係は検討できないため、縦断調査も検討されるとよい。

E 結論

本研究は5年毎に実施しており、前回調査までは、健康関連の項目では改善がみられるが、社会生活面ではほぼ変化がないという結果であったが、今回はじめて、恋愛や結婚などの人間関係や社会生活上の制約感の軽減がみられた。ただし精神健康度については変化がなく、問題をもつ人の割合が高かった。就労関連の項目でも変化はみられなかった。

クリニック調査は、大部分がMSMという属性の違いが、ブロック調査との違いに関連していると推察されるが、拠点病院と同レベルの割合でメンタルヘルスや社会生活の問題をもつ人がいることから、これらへの何らかの支援体制が必要ではないかと考えられた。

F 研究発表

1. 論文発表

なし

2. 学会発表

1) 若林チヒロ、生島嗣、大木幸子：健康状態 15 年間の変化—「HIV 陽性者の健康と生活に関する全国調査」(第 1 報) . 日本公衆衛生学会総会、2020 年、京都 .

2) 生島嗣、若林チヒロ、大木幸子：地域における HIV 検査—「HIV 陽性者の健康と生活に関する全国調査」(第 2 報) . 日本公衆衛生学会総会、2020 年、京都 .

3) 大木幸子、若林チヒロ、生島嗣：高齢期の備えと関連要因—「HIV 陽性者の健康と生活に関する全国調査」(第 3 報) . 日本公衆衛生学会総会、2020 年、京都 .

4) 若林チヒロ、池田和子、杉野祐子、谷口紅、中濱智子、東政美、生島嗣：HIV 陽性者の基本的属性—「HIV 陽性者の健康と生活に関する全国調査」の結果から(第 1 報) . 日本エイズ学会、2020 年、東京 .

5) 中濱智子、東政美、池田和子、杉野祐子、谷口紅、生島嗣、若林チヒロ：HIV 陽性者の情報の Up date における課題—「HIV 陽性者の健康と生活に関する全国調査」の結果から(第 2 報) . 日本エイズ学会、2020 年、東京 .

6) 東政美、中濱智子、池田和子、杉野祐子、谷口紅、生島嗣、若林チヒロ：HIV 陽性者の高齢化と介護—「HIV 陽性者の健康と生活に関する全国調査」の結果から—(第 3 報) . 日本エイズ学会、2020 年、東京 .

7) 杉野祐子、谷口紅、池田和子、東政美、中濱智子、青木孝弘、田沼順子、生島嗣、若林チヒロ：HIV 陽性者の併存疾患と受診行動—「HIV 陽性者の健康と生活に関する全国調査」の結果から(第 4 報) . 日本エイズ学会、2020 年、東京 .

8) 谷口紅、杉野祐子、池田和子、東政美、中濱智子、青木孝弘、田沼順子、生島嗣、若林チヒロ：HIV 陽性者の病名開示—「HIV 陽性者の健康と生活に関する全国調査」の結果から(第 5 報) . 日本エイズ学会、2020 年、東京 .

9) 池田和子、杉野祐子、谷口紅、東政美、中濱智子、青木孝弘、田沼順子、生島嗣、若林チヒロ：薬害被害者の精神健康—「HIV 陽性者の健康と生活に関する全国調査」の結果から(第 6 報) . 日本エイズ学会、2020 年、東京 .

10) 生島嗣、三輪武史、大槻智子、山口正純、大木幸子、若林チヒロ、樽井正義：HIV 検査と告知時期に関する考察—「HIV 陽性者の健康と生活に関する全国調査」の結果から . 日本エイズ学会、2020 年、東京 .

11) 生島嗣、三輪武史、大槻智子、山口正純、大木幸子、若林チヒロ、樽井正義：HIV 陽性と就労に関する考察—「HIV 陽性者の健康と生活に関する全国調査」の結果から . 日本エイズ学会、2020 年、東京 .

12) 大木幸子、若林チヒロ、斎藤可夏子、生島嗣：40 歳以上の HIV 陽性者の将来の介護場所の希望と関連要因—「HIV 陽性者の健康と生活に関する全国調査」から . 日本エイズ学会、2020 年、東京 .

13) 山口正純、三輪武史、大槻知子、大木幸子、生島嗣、若林チヒロ、樽井正義：HIV 陽性者における薬物使用パターンの経時的変化—「HIV 陽性者の健康と生活に関する全国調査」の結果から．日本エイズ学会，2020年，東京．

14) 若林チヒロ：第1回(2003年)～第4回(2019年)「HIV 陽性者の健康と生活に関する全国調査」の結果にみる陽性者の QOL. 日本エイズ学会，2020年，東京．

G 知的財産権の出願・登録状況 (予定を含む)

1. 特許取得

なし

2. 実用新案登録

なし

3. その他

なし

調査項目一覧

1 HIV 関連の健康状態と治療	P.20
1) CD4 値	5) 抗 HIV 薬の飲み忘れ
2) ウイルス量	6) 予防接種・ワクチン
3) エイズ発症	7) この 1 年間の入院日数
4) 抗 HIV 薬の服用回数	7-1) 【入院した人に】入院理由
2 医療機関の受診	P.22
1) HIV 診療での通院頻度	5) HIV 受診医療機関を選んだ理由
2) すべての診療での通院頻度	6) これまでに受診した HIV 医療機関の種類
3) 定期受診している病気、けが、症状、妊娠	7) HIV 受診医療機関の転院回数
4) HIV 受診医療機関の種類	
3 ふだんの健康状態と健康行動	P.23
1) 主観的健康感	5) 睡眠の程度
2) 健康問題による日常生活への影響	6) 睡眠薬・安定剤の服用
2-1) 【影響がある人に】影響の範囲	7) 喫煙
3) 自覚症状	7-1) 【喫煙する人に】喫煙本数
3-1) 【症状がある人に】症状の種類	8) 飲酒
4) 睡眠時間	8-1) 【飲酒する人に】飲酒量
4 こころの健康	P.25
1) HIV 陽性判明後の生活意識の変化	3) メンタルヘルス(K6 尺度)
2) 悩み・ストレス	
2-1) 【悩み・ストレスがある人に】悩み・ストレスの原因	
2-2) 【悩み・ストレスがある人に】最も気になる悩み・ストレスの種類	
5 性と健康	P.27
1) HIV の知識・情報(PrEP, U=U, 余命, 出産)	4-a) HIV 感染と子ども
2) 性生活の満足度	5) 子づくりの意向
3) HIV 陽性判明後の性経験	5-1) 【意向がある人に】子づくりのための行動
6 ふだんの活動や人間関係	P.28
1) 地域活動・社会活動・陽性者ネットワーク	6) HIV 陽性判明後の意識・行動の制限
2) インターネットを利用した活動	7) 居住地での人付き合い
3) 周囲の人への病名開示	8) 差別経験
4) 病名を伝えた人数	8-1) 具体的な差別経験(自由回答)
5) 病気・障がいによる制約感	
7 世帯や生計、制度の利用	P.31
1) 同居者	7) 健康診断
2) 世帯の家計主	8) 障害者手帳
3) 世帯の収入源	8-1) 【取得している人に】障害者手帳の種類・等級
4) 主な収入源	8-2) 【取得していない人に】取得していない理由
5) 暮らし向き	9) 障害者雇用制度での就労
6) 健康保険	10) 障害者雇用制度の利用意向
8 働くことについて	P.34
1) HIV 陽性判明時の就労	3) 将来の就労意向
1-1) 【就労していた人に】HIV 陽性判明時の働き方	4) 主治医からの就労アドバイス
1-2) 【就労していた人に】HIV 陽性判明時の雇用形態	5) 相談先
1-3) 【就労していなかった人に】HIV 陽性と判明時の職業	
2) HIV 陽性判明以降の離職	
2-S) 【離職した人に】離職回数	
2-1) 【離職した人に】離職時期	
2-2) 【離職した人に】離職理由	

9 現在の仕事について	P.35
1) 就労の有無	
10-1 【就労している人に】就労の状況	P.36
1-a) 1 週間の就労日数	5) 雇用形態
1-b) 1 週間の就労時間	6) 職種
2) 1 か月間の就労日数	7) 勤務先の企業規模
3) 健康問題による休暇・休業	8) 勤務先の業種
4) 就労収入	9) 仕事・職場の評価
10-2 【就労していない人に】非就労の状況	P.40
1) 現在の職業	4) 就労希望
2) 非就労理由	5) 非就労期間
3) 就労準備	
11 高齢期の生活や介護	P.41
1) 高齢期への備え	4) 要介護になった時に介護してもらいたい人
2) 現在のサービス利用	5) 介護サービス利用時の心配
3) 要介護になった時に住みたい場所	6) 高齢期の生活への備え(自由回答)
12 HIV/ エイズ対策などの評価	P.42
1) 行政、医療、職場、教育、社会の HIV/ エイズ対策の評価	
13 ドラッグや薬物	P.42
1) ドラッグ・薬物使用経験	2) 危険ドラッグ、5MeO-DIPT、ラッシュの入手
1-1) 【使用した人に】種類別使用経験	2-1) 【他のドラッグを使用した人に】使用したドラッグの種類
1-2) 【使用した人に】目的別使用経験	3) 薬物・ドラッグについて、自身や周囲の経験からの意見(自由回答)
1-3) 【使用した人に】使用開始時期	
1-4) 【使用した人に】使用のコントロール感	
1-5) 【使用した人に】今後の使用意向	
14 HIV とわかった当時から現在までのこと	P.45
1) HIV 検査機関	7) 受診中断
2) HIV 陽性告知年	7-1) 【受診中断した人に】受診中断時期
3) HIV 陽性告知時のエイズ発症	7-2) 【受診中断した人に】受診中断理由
4) HIV 感染可能性の認識	8) HIV 陽性告知後の転居
5) HIV 陽性告知を受けた地域	8-1) 【転居した人に】転居理由
6) 現在の HIV 受診医療機関の所在地	9) HIV 陽性告知時の居住地
	10) 現在の居住地
15 基本的属性	P.46
1) 戸籍上の性別	7) 最終学歴
2) 性指向・性自認	8) 在学・卒業
3) 年齢	9) 国籍
4) 感染経路	10) 階層帰属意識
5) 法律婚	11) 将来の生活設計
6) 同性パートナーシップ	12) 他の陽性者や人々に伝えたいこと(自由回答)
自由回答	P.48
Q6-8 差別的な対応や待遇	Q13-3 薬物やドラッグについて
Q11-6 高齢期の生活	Q15-12 他の HIV 陽性者等に伝えたいこと

A 調査と B 調査を合わせたデータ(2021 年 3 月末集計値)の単純集計結果と自由回答を示した。(2555 票 配布、1543 票回収、回収率 60.4%)。

集計表は、複数回答の質問は、対象者全体の人数を最下段の合計欄に記載した。副問の質問(主問の該当者のみが対象)は、全数 1543 名を対象とした結果と、主問の該当者のみを対象とした結果とを示した。

▼ 単純集計結果 ▼

1. HIV関連の健康状態と治療

1) 直近の CD4 値 (個 / μ l)

	N	%	%
～99	71	4.6	4.7
100～199	48	3.1	3.2
200～349	195	12.6	12.8
350～499	341	22.1	22.4
500～	801	51.9	52.7
分からない	63	4.1	4.1
合計	1519	98.4	100.0
無回答	24	1.6	
合計	1543	100.0	

2) 直近の HIV ウイルス量 (個 / μ l)

	N	%	%
検出限界以下 (検出されなかった)	1188	77.0	78.3
20以上200以下	186	12.1	12.3
201以上4,999以下	27	1.7	1.8
5,000以上	30	1.9	2.0
分からない	87	5.6	5.7
合計	1518	98.4	100.0
無回答	25	1.6	
合計	1543	100.0	

3) エイズ発症

	N	%	%
経験あり	384	24.9	25.1
経験なし	1080	70.0	70.6
分からない	66	4.3	4.3
合計	1530	99.2	100.0
無回答	13	0.8	
合計	1543	100.0	

4) 抗 HIV 薬の 1 日の服用回数

	N	%	%
1日に1回	1406	91.1	91.6
1日に2回	101	6.5	6.6
1日に3回以上	4	0.3	0.3
月1回の注射(治験)	5	0.3	0.3
休業中	0	0.0	0.0
服薬を始めていない	19	1.2	1.2
合計	1535	99.5	100.0
無回答	8	0.5	
合計	1543	100.0	

5) この1ヶ月間に、抗 HIV 薬の服用を忘れたこと(24時間以上飲まなかったこと)は何回くらいありますか。

	N	%	%
ほぼ毎日	16	1.0	1.1
週に2回以上	22	1.4	1.5
週に1回	45	2.9	3.0
2週に1回	64	4.1	4.2
月に1回	337	21.8	22.2
忘れたことはない	1032	66.9	68.1
合計	1516	98.3	100.0
非該当(服薬無し)	19	1.2	
無回答	8	0.5	
合計	1543	100.0	

6) HIV とわかって以降、現在までに受けた予防接種・ワクチン(複数回答)

	N	%	%
MR ワクチン	58	3.8	3.8
インフルエンザ	1030	66.8	67.4
A 型肝炎	154	10.0	10.1
B 型肝炎	129	8.4	8.4
HPV	11	0.7	0.7
肺炎球菌	86	5.6	5.6
その他	23	1.5	1.5
とくになし	428	27.7	28.0
無回答	14	0.9	
合計	1543	1543	1529

7) HIV に関わらず、この1年間の入院日数

	N	%	%
入院なし	1311	85.0	85.6
1～9日間	112	7.3	7.3
10～29日間	59	3.8	3.9
30日間以上	46	3.0	3.0
日数不明	3	0.2	0.2
合計	1531	99.2	100.0
無回答	12	0.8	
合計	1543	100.0	

注) 「日数不明」は 7-1 の質問に明確な入院理由が記載されている回答
注) 7-1 の記載から「HIV に関わらず」を HIV 感染症と関係ない入院についての質問と解釈した回答が含まれていると推定された。

7-1) この1年間に入院した理由や病名を教えてください

A型肝炎(5)	結核	虫垂炎 盲腸(3)
A型肝炎、うつ病、ヘルペス脳炎	検査：健康診断で肺に影と診断され精密検査(結果異常なし)	虫垂炎からの腹膜炎
B型肝炎	検査入院(3)	腸管出血での貧血のための輸血
B型肝炎、肺炎、HIV	検査入院(HIVの)	陳旧性心筋梗塞、労作性狭心症の治療、カテーテルによるステント留置
C型肝炎	肩の手術(スポーツによる外傷)	転移性大腸癌
HIVの初期症状の高熱	肩の腱板損傷(トレーニング中の事故)	糖尿病(2)
HPV	口唇ガン	糖尿病、肺炎、中耳炎手術
MRSA(虫さされから?)	抗HIV薬の副作用	糖尿病(1型)、MRSA、皮フ炎
PML治療	甲状腺腫摘出	糖尿病教育入院(2)
SASの検査	高血圧による心不全	統合失調症
アキレス腱断裂	腰椎椎間板ヘルニア(2)	動脈硬化(両足)
インフルエンザ肺炎	腰痛	突発性太腿頭骨壊死症
インフルエンザからの口頭浮腫 or 咽頭浮腫	骨切、シャント	突発性難聴(2)
うつ傾向	骨折(5)	内視鏡検査
エイズ発症による食道潰瘍	骨折(手首と下アゴ)、虚血性脳血栓	尿管結石
かぜ	骨折(手術及びリハビリ)	尿管管膿瘍
かぜで肺炎(2)	骨肉腫手術	尿路結石による腎盂腎炎
カボシ肉腫(2)	坐骨神経痛	尿路結石の手術
がん	四肢脱力	脳出血
クリプトコッカス髄膜炎	指からの出血	脳脊髄液減少症の疑いのため検査入院
けが	事故	脳卒中、肝臓がん
コンジローマ(2)	痔ろう	肺炎(11)
コンジローマ(肛門)	痔ろう手術	肺炎(細菌性)、右原発性肺癌
コンジローマの手術	出産	肺気腫
すい臓とリパーゼ	消化器外科	肺結核
てんかん	食中毒(サルモネラ菌)	梅毒(3)
ニューモシスチス肺炎(3)	食道がんの再発治療及びそれに伴う肺炎治療	白内障(3)
ニューモシスチス肺炎、サイトメガロ腸炎、口腔カンジダ	食道静脈瘤、親不知抜歯	抜歯：口腔外科にて手術
ニューモシスチス肺炎、トキソプラズマ脳症	心筋梗塞の疑いでカテーテル	貧血、胃がん、胃全摘出手術
ニューモシスチス肺炎、急性脾炎	心臓のアブレーション術	不整脈
ニューモシスチス肺炎(PCP)	心臓の血管の詰りでステントを入れるため	不整脈と心疾患
ヘルニア(鼠径部)手術	心臓血管狭さく	不眠
咽頭炎(2)	心不全	腹膜炎
感染症	心房細動カテーテルアブレーション手術	蜂窩織炎(4)
感染症及び薬(ダイフェン)の副作用	親不知の抜歯(2)	蜂窩織炎(腹部)
肝がん(2)	人口膝関節置換術	慢性すい炎
肝炎	腎盂腎炎	慢性腎不全(薬の影響ではない)
肝炎(AかB)	水疱瘡	無呼吸症候群の検査入院
肝細胞ガン開腹切除	髄膜炎(2)	薬疹
間質性肺炎	髄膜炎(HIVによる)(2)	薬疹と発熱
間質性肺炎、糖尿病	前立腺	両側下顎埋伏智歯(骨を削った)抜歯後感染
眼内レンズ脱臼	鼠径ヘルニア	右下顎骨周囲炎、右下顎下部蜂窩織炎
顔面マヒ	鼠径ヘルニアの手術	緑内障手術
顔面打撲で内出血	帯状疱疹	漏斗胸 挙上術
気管支鏡使用に伴う検査入院	大腸カメラのため	漏斗胸のバー抜去
気胸	大腸ガン	喘息
偽痛風	大腸のポリープ	扁桃炎
急性C型肝炎	大腸及び胃の検査(激しい嘔吐や下痢が続いた)	扁桃腺が腫れた為
急性胃腸炎	大腸検査	扁平上皮がん
急性咽頭炎	脱毛症、ステロイド投入	肛門管がん
急性冠動脈症候群	胆石(2)	肛門上皮がん
急性肝炎	胆石症による手術、右胸部出口症候群(神経性)の外科治療	膀胱がん
急性骨髄性白血病	胆石性胆のう炎にて手術	膀胱癌、鼻の手術
急性胆のう炎、HIV	蓄膿症治療	頸椎の手術
急性脾炎、B型肝炎		頸椎狭窄症の検査入院

注) ()は2名以上の回答の人数

2. 医療機関の受診

1) HIV 診療での通院頻度

	N	%	%
1ヶ月に2回以上	18	1.2	1.2
1ヶ月に1回	181	11.7	11.8
2ヶ月に1回	228	14.8	14.9
3ヶ月に1回	1090	70.6	71.0
4か月に1回	14	0.9	0.9
5ヶ月以上に1回	4	0.3	0.3
合計	1535	99.5	100.0
無回答	8	0.5	
合計	1543	100.0	

2) すべての診療（HIVに加えて、その他の病気・けが・妊娠も含む）での通院頻度（HIVで通院している医療機関以外の病院やクリニックへの通院を含みます）

	N	%	%
1ヶ月に2回以上	234	15.2	15.5
1ヶ月に1回	373	24.2	24.7
2ヶ月に1回	317	20.5	21.0
3ヶ月に1回	576	37.3	38.1
4か月に1回	8	0.5	0.5
5ヶ月以上に1回	3	0.2	0.2
合計	1511	97.9	100.0
無回答	32	2.1	
合計	1543	100.0	

3) HIV以外で、定期的に診察や施術を受けている病気、けが、症状、妊娠（複数回答）

	N	%	%
糖尿病	110	7.1	7.3
高脂血症	91	5.9	6.0
高血圧症	121	7.8	8.0
心臓の病気	52	3.4	3.4
A型肝炎	1	0.1	0.1
B型肝炎	59	3.8	3.9
C型肝炎	35	2.3	2.3
HIV以外の性感染症	25	1.6	1.7
うつ・心・精神の病気	177	11.5	11.7
依存症	23	1.5	1.5
皮膚の病気	158	10.2	10.4
アレルギー疾患	111	7.2	7.3
がん	38	2.5	2.5
胃腸病・痔	28	1.8	1.8
腎臓病・透析	22	1.4	1.5
肩こり・腰痛症	129	8.4	8.5
血友病・血液凝固因子症	58	3.8	3.8
婦人科系の病気	7	0.5	0.5
骨折・けが	26	1.7	1.7
歯・口腔の病気	346	22.4	22.8
眼の病気	109	7.1	7.2
その他	128	8.3	8.4
とくになし	552	35.8	36.4
無回答	28	1.8	
合計	1543	1543	1515

4) 現在、HIVで主に受診している医療機関の種類はどれですか（○は一つ）

	N	%	%
一般の診療所・クリニック	130	8.4	8.5
一般の病院	59	3.8	3.8
HIVも専門の診療所・クリニック	245	15.9	16.0
HIV専門科のある病院	1096	71.0	71.5
その他	3	0.2	0.2
合計	1533	99.4	100.0
無回答	10	0.6	
合計	1543	100.0	

注) 「その他」は複数の医療機関を選択したもの

注) この質問への回答は、受診医療機関が専門か一般かの区別がつかなかったことによるものであり、実際の医療機関の種別ではない。

5) 上記の医療機関を選んだ理由を教えてください（複数回答）

	N	%	%
場所が都合がよい	457	29.6	29.8
診療時間や曜日が都合がよい	361	23.4	23.5
予約制、待ち時間	239	15.5	15.6
スタッフが充実	420	27.2	27.4
雰囲気、話しやすさ	415	26.9	27.1
プライバシーが守られる	331	21.5	21.6
HIV 医療体制が充実	750	48.6	48.9
HIV 以外の医療体制が充実	323	20.9	21.1
HIV 関連の病気治療のため	256	16.6	16.7
HIV 以外の病気治療のため	105	6.8	6.8
HIV の健康状態が安定しているから	177	11.5	11.5
主治医の異動に伴って	55	3.6	3.6
感染判明時に紹介された	771	50.0	50.3
感染判明時から受診していた	247	16.0	16.1
その他	75	4.9	4.9
無回答	10	0.6	
合計	1543	1543	1533

6) これまでに、HIV で受診した医療機関の種類をすべて教えてください（複数回答）

	N	%	%
一般の診療所	207	13.4	13.5
一般の病院	331	21.5	21.6
HIV も専門の診療所	296	19.2	19.3
HIV 専門科のある病院	1278	82.8	83.3
その他	21	1.4	1.4
無回答	8	0.5	
合計	1543	1543	1535

注)この質問への回答は、受診医療機関が専門か一般かの区別がつかなかったことによるものを含んでいる

7) これまでに、HIV 感染症の治療で何回転院しましたか。

	N	%	%
0回(転院なし)	933	60.5	63.0
1回	396	25.7	26.7
2回	98	6.4	6.6
3回	35	2.3	2.4
4回	12	0.8	0.8
5回	4	0.3	0.3
6回	1	0.1	0.1
10回以上	3	0.2	0.2
合計	1482	96.0	100.0
無回答	61	4.0	
合計	1543	100.0	

3. ふだんの健康状態と健康行動

1) あなたの現在の健康状態

	N	%	%
よい	584	37.8	38.2
まあよい	453	29.4	29.6
ふつう	370	24.0	24.2
あまりよくない	108	7.0	7.1
よくない	13	0.8	0.9
合計	1528	99.0	100.0
無回答	15	1.0	
合計	1543	100.0	

2) あなたは現在、健康上の問題で日常生活に何か影響がありますか

	N	%	%
ある	295	19.1	19.3
ない	1230	79.7	80.7
合計	1525	98.8	100.0
無回答	18	1.2	
合計	1543	100.0	

2-1) それはどのようなことに影響がありますか（複数回答）

	N	%	%	%
日常生活動作 (起床、衣服着脱、食事、入浴等)	66	4.3	22.4	22.4
外出 (時間や作業量などが制限される)	91	5.9	30.8	31.0
仕事、家事、学業 (時間や作業量などが制限される)	138	8.9	46.8	46.9
運動・スポーツ	126	8.2	42.7	42.9
その他	53	3.4	18.0	18.0
無回答	1	0.1	0.3	
合計	295	19.1		
非該当(主問)	1230	79.7		
無回答(主問)	18	1.2		
合計	1543	1543	295	294

3) あなたはこの数日、病気やけがなどで体の具合の悪いところ（自覚症状）がありますか

	N	%	%
ある	882	57.2	58.4
ない	627	40.6	41.6
合計	1509	97.8	100.0
無回答	34	2.2	
合計	1543	100.0	

3-1) それはどのような症状ですか (複数回答)

	N	%	%	%
(全身): 熱がある	51	3.3	5.8	5.8
(全身): 体がだるい	214	13.9	24.3	24.3
(全身): 眠れない	155	10.0	17.6	17.6
(全身): いらいらしやすい	123	8.0	13.9	13.9
(全身): もの忘れ	99	6.4	11.2	11.2
(全身): 頭痛	120	7.8	13.6	13.6
(全身): めまい	54	3.5	6.1	6.1
(胸・呼吸): どうき	52	3.4	5.9	5.9
(胸・呼吸): 息切れ	52	3.4	5.9	5.9
(胸・呼吸): 胸の痛み	32	2.1	3.6	3.6
(胸・呼吸): ゼイゼイする	30	1.9	3.4	3.4
(胸・呼吸): せき・たん	172	11.1	19.5	19.5
(胸・呼吸): 鼻づまり・鼻水	155	10.0	17.6	17.6
(腹・消化): 胃のもたれ・胸やけ	99	6.4	11.2	11.2
(腹・消化): 吐き気	34	2.2	3.9	3.9
(腹・消化): 下痢	148	9.6	16.8	16.8
(腹・消化): 便秘	81	5.2	9.2	9.2
(腹・消化): 食欲がない	29	1.9	3.3	3.3
(腹・消化): 腹痛・胃痛	46	3.0	5.2	5.2
(腹・消化): ぢの痛み / 出血	35	2.3	4.0	4.0
(目耳口歯): 目のかすみ	171	11.1	19.4	19.4
(目耳口歯): 物を見づらい	121	7.8	13.7	13.7
(目耳口歯): 耳なりがする	66	4.3	7.5	7.5
(目耳口歯): きこえにくい	42	2.7	4.8	4.8
(目耳口歯): 歯が痛い	50	3.2	5.7	5.7
(目耳口歯): かみにくい	22	1.4	2.5	2.5
(目耳口歯): 歯ぐきのはれ・出血	74	4.8	8.4	8.4
(手足肩腰): 肩こり	251	16.3	28.5	28.5
(手足肩腰): 腰痛	222	14.4	25.2	25.2
(手足肩腰): 手足の関節が痛む	118	7.6	13.4	13.4
(手足肩腰): 手足の動きが悪い	56	3.6	6.3	6.3
(手足肩腰): 手足のしびれ	93	6.0	10.5	10.5
(手足肩腰): 手足が冷える	71	4.6	8.0	8.0
(手足肩腰): 足のむくみ・だるさ	87	5.6	9.9	9.9
(皮ふ): 発疹(じんま疹/でき物)	132	8.6	15.0	15.0
(皮ふ): かゆみ(しっしん/水虫など)	200	13.0	22.7	22.7
(尿・生理): 尿が出にくい・痛い	38	2.5	4.3	4.3
(尿・生理): 尿の回数が多い	146	9.5	16.6	16.6
(尿・生理): 尿失禁・もれる	42	2.7	4.8	4.8
(尿・生理): 月経不順・月経痛	6	0.4	0.7	0.7
(けが・他): 骨折・ねんざ・脱きゅう	22	1.4	2.5	2.5
(けが・他): 切り傷・やけどなどのけが	23	1.5	2.6	2.6
(けが・他): その他	50	3.2	5.7	5.7
無回答	0	2.2	0.0	
合計	882	57.2		
非該当(主問)	627	40.6		
無回答(主問)	34	2.2		
合計	1543	1543	882	882

4) ここ1ヶ月間の、1日の平均睡眠時間

	N	%	%
5時間未満	162	10.5	10.5
5時間~	587	38.0	38.1
6時間~	523	33.9	34.0
7時間~	194	12.6	12.6
8時間~	60	3.9	3.9
9時間以上	13	0.8	0.8
合計	1539	99.7	100.0
無回答	4	0.3	
合計	1543	100.0	

5) ここ1ヶ月間、あなたは睡眠で休養が充分とれていますか

	N	%	%
充分とれている	252	16.3	16.4
まあまあとれている	840	54.4	54.7
あまりとれていない	408	26.4	26.6
まったくとれていない	36	2.3	2.3
合計	1536	99.5	100.0
無回答	7	0.5	
合計	1543	100.0	

6) ここ1ヶ月間、眠るために睡眠薬や安定剤などの薬を使いましたか

	N	%	%
まったく使わない	1090	70.6	71.0
めったに使わない	84	5.4	5.5
ときどき使う	118	7.6	7.7
つねに使う	244	15.8	15.9
合計	1536	99.5	100.0
無回答	7	0.5	
合計	1543	100.0	

7) たばこを吸いますか

	N	%	%
毎日吸っている	420	27.2	27.3
時々吸う日がある	56	3.6	3.6
やめた(1ヶ月以上前)	260	16.9	16.9
吸わない	801	51.9	52.1
合計	1537	99.6	100.0
無回答	6	0.4	
合計	1543	100.0	

7-1) 通常、1日に何本吸いますか

	N	%	%	%
1-10本	203	13.2	42.6	43.1
11-20本	227	14.7	47.7	48.2
21-30本	31	2.0	6.5	6.6
31-40本	10	0.6	2.1	2.1
無回答	5	0.3	1.1	100.0
合計	476	30.8	100.0	
非該当(主問:吸わない・やめた)	1061	68.8		
無回答(主問)	6	0.4		
合計	1543	1543	476	471

8-1) お酒を飲む日は、1日あたり、どのくらいの量を飲みますか

	N	%	%	%
1合未満	160	10.4	20.0	20.0
1~2合未満	285	18.5	35.5	35.5
2~3合未満	175	11.3	21.8	21.8
3~4合未満	84	5.4	10.5	10.5
4~5合未満	47	3.0	5.9	5.9
5合以上	47	3.0	5.9	5.9
飲酒量不明	4	0.3	0.5	0.5
無回答	0	0.0	0.0	100.0
合計	802	52.0	100.0	
非該当(主問:飲酒無し)	736	47.7		
無回答(主問)	5	0.3		
合計	1543	1543	802	802

8) お酒を飲みますか

	N	%	%
毎日	201	13.0	13.1
週5-6日	90	5.8	5.9
週3-4日	106	6.9	6.9
週1-2日	207	13.4	13.5
月1-3日	193	12.5	12.5
頻度不明(飲酒あり)	5	0.3	0.3
ほとんど飲まない	344	22.3	22.4
やめた	51	3.3	3.3
飲まない	341	22.1	22.2
合計	1538	99.7	100.0
無回答	5	0.3	
合計	1543	100.0	

4. こころの健康

1) HIV陽性とわかって以降、あなたの生活やお気持ちにはどのような変化がありましたか

	n	そう思う	まあそう思う	あまりそう思わない	そう思わない	合計	無回答	合計
a. 日々の生活を大切に するようになった	343	629	388	170	1530	13	1543	
	22.4	41.1	25.4	11.1	100.0			
b. 人間関係が広がった	90	186	584	668	1528	15	1543	
	5.9	12.2	38.2	43.7	100.0			
c. 精神的に強くなった	222	470	481	357	1530	13	1543	
	14.5	30.7	31.4	23.3	100.0			
d. 健康と生活のバランスを 意識するようになった	341	710	318	162	1531	12	1543	
	22.3	46.4	20.8	10.6	100.0			

2) 現在、日常生活で悩みやストレスがありますか

	N	%	%
ある	1214	78.7	79.1
ない	321	20.8	20.9
合計	1535	99.5	100.0
無回答	8	0.5	
合計	1543	100.0	

2-1) それは、どのような原因ですか

(複数回答)

	N	%	%	%
家族との人間関係	344	22.3	28.3	28.4
家族以外との人間関係	375	24.3	30.9	30.9
恋愛・性に関すること	446	28.9	36.7	36.8
結婚	93	6.0	7.7	7.7
離婚	13	0.8	1.1	1.1
いじめ、セクシュアルハラスメント	40	2.6	3.3	3.3
生きがいに関すること	374	24.2	30.8	30.8
自由にできる時間がない	86	5.6	7.1	7.1
収入・家計・借金等	534	34.6	44.0	44.0
自分の病気や介護	411	26.6	33.9	33.9
家族の病気や介護	164	10.6	13.5	13.5
妊娠・出産	13	0.8	1.1	1.1
育児	9	0.6	0.7	0.7
家事	51	3.3	4.2	4.2
自分の学業・受験・進学	24	1.6	2.0	2.0
子どもの教育	19	1.2	1.6	1.6
自分の仕事	781	50.6	64.3	64.4
家族の仕事	25	1.6	2.1	2.1
住まいや生活環境 (公害、安全、交通事情を含む)	156	10.1	12.9	12.9
わからない	7	0.5	0.6	0.6
その他	58	3.8	4.8	4.8
無回答	1	0.1	0.1	
合計	1214	78.7		
非該当(主問)	321	20.8		
無回答(主問)	8	0.5		
合計	1543	1543	1214	1213

2-2) 上記1～21のうち、最も気になる悩みやストレスはどれですか。

	N	%	%	%
家族との人間関係	66	4.3	5.4	5.7
家族以外との人間関係	68	4.4	5.6	5.9
恋愛・性に関すること	107	6.9	8.8	9.2
結婚	18	1.2	1.5	1.5
離婚	3	0.2	0.2	0.3
いじめ、セクシュアルハラスメント	3	0.2	0.2	0.3
生きがいに関すること	83	5.4	6.8	7.1
自由にできる時間がない	11	0.7	0.9	0.9
収入・家計・借金等	215	13.9	17.7	18.5
自分の病気や介護	119	7.7	9.8	10.2
家族の病気や介護	38	2.5	3.1	3.3
妊娠・出産	1	0.1	0.1	0.1
育児	1	0.1	0.1	0.1
家事	2	0.1	0.2	0.2
自分の学業・受験・進学	5	0.3	0.4	0.4
子どもの教育	2	0.1	0.2	0.2
自分の仕事	350	22.7	28.8	30.1
家族の仕事	4	0.3	0.3	0.3
住まいや生活環境 (公害、安全、交通事情を含む)	18	1.2	1.5	1.5
わからない	5	0.3	0.4	0.4
その他	43	2.8	3.5	3.7
無回答	52	3.4	4.3	
合計	1214	78.7		
非該当(主問)	321	20.8		
無回答(主問)	8	0.5		
合計	1543	1543	1214	1162

3) この1ヶ月の間に、どれくらいのひん度で、次のことがありましたか

		いつも	たいてい	ときどき	少しだけ	まったくない	合計	無回答	合計
神経過敏に感じましたか	N	55	109	303	312	756	1535	8	1543
	%	3.6	7.1	19.7	20.3	49.3	100.0		
絶望的だと感じましたか	N	38	81	218	327	870	1534	9	1543
	%	2.5	5.3	14.2	21.3	56.7	100.0		
そわそわ、落ち着かなく感じましたか	N	25	71	288	369	779	1532	11	1543
	%	1.6	4.6	18.8	24.1	50.8	100.0		
気分が沈み込んで、何が起ころとも気が晴れないように感じましたか	N	57	112	336	413	616	1534	9	1543
	%	3.7	7.3	21.9	26.9	40.2	100.0		
何をするのも骨折りと感じましたか	N	45	95	255	405	733	1533	10	1543
	%	2.9	6.2	16.6	26.4	47.8	100.0		
自分は価値のない人間だと感じましたか	N	105	112	206	308	804	1535	8	1543
	%	6.8	7.3	13.4	20.1	52.4	100.0		

5. 性と健康

1) 次のような HIV に関する情報のうち、知っているものはどれですか

		知っている	知らない	合計	無回答	合計
a. 6 か月間以上 HIV ウイルスが 検出限界以下であれば、他の人に HIV が感染することはないこと	n	868	666	1534	9	1543
	%	56.6	43.4	100.0		
b. 親が HIV 感染していても、適切な 予防をすれば、子どもが HIV に 感染することなく出生できること	n	985	550	1535	8	1543
	%	64.2	35.8	100.0		
c. PrEP (HIV 暴露前予防)について	n	729	802	1531	12	1543
	%	47.6	52.4	100.0		
d. 治療継続している HIV 陽性者の 余命は、一般人とほぼ変わらない レベルまで延びていること	n	1330	206	1536	7	1543
	%	86.6	13.4	100.0		

2) 現在、あなたは性生活に満足していますか

	N	%	%
とても満足	73	4.7	4.9
まあ満足	685	44.4	46.0
やや不満	508	32.9	34.1
とても不満	223	14.5	15.0
合計	1489	96.5	100.0
無回答	54	3.5	
合計	1543	100.0	

3-a) HIV 感染が分かって以降のセックスの経験について：a. セックスの経験

	N	%	%
この1ヶ月内にある	647	41.9	42.4
この1年内にある	364	23.6	23.8
1年以上前にある	240	15.6	15.7
経験はない	276	17.9	18.1
合計	1527	99.0	100.0
無回答	16	1.0	
合計	1543	100.0	

3-b) HIV 感染が分かって以降のセックスの経験について：b. コンドームを使わないセックスの経験

	N	%	%
この1ヶ月内にある	375	24.3	24.7
この1年内にある	280	18.1	18.5
1年以上前にある	260	16.9	17.2
経験はない	601	39.0	39.6
合計	1516	98.3	100.0
無回答	27	1.7	
合計	1543	100.0	

4-a) あなたには、次のような子ども（実子）がいますか：a. HIV 感染が分かった後にできた子ども

	N	%	%
いる	40	2.6	2.6
いない	1484	96.2	97.4
合計	1524	98.8	100.0
無回答	19	1.2	
合計	1543	100.0	

4-b) あなたには、次のような子ども（実子）がいますか：b. HIV 感染が分かった時に妊娠していた子ども

	N	%	%
いる	16	1.0	1.1
いない	1499	97.1	98.9
合計	1515	98.2	100.0
無回答	28	1.8	
合計	1543	100.0	

5) 次のうち、子ども（実子）をもつことに関するあなたのお考えのうち、どれが一番近いですか（1つだけ○）

	N	%	%
欲しい	194	12.6	13.1
欲しかったが、あきらめた	271	17.6	18.4
欲しくない	290	18.8	19.6
考えたこともない	721	46.7	48.8
合計	1476	95.7	100.0
無回答	67	4.3	
合計	1543	100.0	

5-1) (「欲しい」とした方に)子ども(実子)をもつ
 ことに関する行動を教えてください(複数回答)

	N	%	%	%
医師と相談して、 子づくりをしている	34	2.2	17.5	18.2
医師には相談せず、 子づくりをしている	9	0.6	4.6	4.8
どう行動すればよいか 分からない	30	1.9	15.5	16.0
子づくりはしていない	116	7.5	59.8	62.0
無回答	7	0.5	3.6	
合計	194	12.6		
非該当(主問)	1282	83.1		
無回答(主問)	67	4.3		
合計	1543	1543	194	187

6. ふだんの活動や人間関係

1) この1年くらいの間、次のような活動をしましたか(複数回答)

	N	%	%
HIV 陽性者の会やグループ活動	129	8.4	8.4
ボランティア活動	132	8.6	8.6
国内旅行(宿泊あり)	875	56.7	57.3
海外旅行	387	25.1	25.3
スポーツ活動	510	33.1	33.4
趣味・娯楽活動	902	58.5	59.1
学習・研究活動	266	17.2	17.4
技能習得や資格取得の活動	209	13.5	13.7
友人との外食	1126	73.0	73.7
婚活イベント・結婚相談所	7	0.5	0.5
バー・居酒屋に飲みに行く	893	57.9	58.5
パートナーの介護	24	1.6	1.6
家族(親など)の介護	167	10.8	10.9
いずれの活動もしていない	130	8.4	8.5
無回答	16	1.0	
合計	1543	1543	1527

2) この1年くらいの間、次のインターネットを利用
 しましたか(複数回答)

	N	%	%
インターネット・メール	1288	83.5	84.2
SNS (Facebook、Twitter、 Instagram など)	1015	65.8	66.4
HIV 陽性者との メール・ネット・SNS	179	11.6	11.7
出会い系アプリ	627	40.6	41.0
HIV 陽性者専用の掲示板	56	3.6	3.7
いずれも利用していない	136	8.8	8.9
無回答	14	0.9	
合計	1543	1543	1529

3) a～sそれぞれについて、あなたが HIV 陽性であることを知らせている人はいますか

		知らせている	知らせていない	そもそも その関係の 人がいない	合計	無回答	合計		
家族・ パートナー	a. 親	N	522	805	177	1504	39	1543	
		%	33.8	52.2	11.5	97.5	2.5	100.0	
		%	34.7	53.5	11.8	100.0			
	b. きょうだい	N	423	922	155	1500	43	1543	
		%	27.4	59.8	10.0	97.2	2.8	100.0	
		%	28.2	61.5	10.3	100.0			
	c. 夫・妻	N	203	225	1034	1462	81	1543	
		%	13.2	14.6	67.0	94.8	5.2	100.0	
		%	13.9	15.4	70.7	100.0			
	d. パートナー	N	478	225	766	1469	74	1543	
		%	31.0	14.6	49.6	95.2	4.8	100.0	
		%	32.5	15.3	52.1	100.0			
	e. 元の夫・妻・パートナー	N	244	301	906	1451	92	1543	
		%	15.8	19.5	58.7	94.0	6.0	100.0	
		%	16.8	20.7	62.4	100.0			
f. 子ども	N	40	286	1139	1465	78	1543		
	%	2.6	18.5	73.8	94.9	5.1	100.0		
	%	2.7	19.5	77.7	100.0				
g. その他の親戚	N	91	947	425	1463	80	1543		
	%	5.9	61.4	27.5	94.8	5.2	100.0		
	%	6.2	64.7	29.0	100.0				
友人・ 学校	h. HIV 陽性の友人	N	554	233	699	1486	57	1543	
		%	35.9	15.1	45.3	96.3	3.7	100.0	
		%	37.3	15.7	47.0	100.0			
	i. その他の友人	N	458	840	200	1498	45	1543	
		%	29.7	54.4	13.0	97.1	2.9	100.0	
		%	30.6	56.1	13.4	100.0			
	j. 学校の友人	N	50	703	707	1460	83	1543	
		%	3.2	45.6	45.8	94.6	5.4	100.0	
		%	3.4	48.2	48.4	100.0			
	k. 先生・教師	N	17	657	785	1459	84	1543	
		%	1.1	42.6	50.9	94.6	5.4	100.0	
		%	1.2	45.0	53.8	100.0			
	HIV 以外での 医療者	l. かかりつけ医	N	621	512	370	1503	40	1543
			%	40.2	33.2	24.0	97.4	2.6	100.0
			%	41.3	34.1	24.6	100.0		
m. 歯科医		N	574	633	287	1494	49	1543	
		%	37.2	41.0	18.6	96.8	3.2	100.0	
		%	38.4	42.4	19.2	100.0			
n. その他医療者		N	157	441	719	1317	226	1543	
		%	10.2	28.6	46.6	85.4	14.6	100.0	
		%	11.9	33.5	54.6	100.0			
仕事 関係		o. 同僚・部下	N	86	1047	349	1482	61	1543
			%	5.6	67.9	22.6	96.0	4.0	100.0
			%	5.8	70.6	23.5	100.0		
		p. 直属の上司	N	169	959	362	1490	53	1543
			%	11.0	62.2	23.5	96.6	3.4	100.0
			%	11.3	64.4	24.3	100.0		
	q. 雇用主・役員等の管理職	N	170	950	364	1484	59	1543	
		%	11.0	61.6	23.6	96.2	3.8	100.0	
		%	11.5	64.0	24.5	100.0			
	r. 人事担当者	N	159	927	395	1481	62	1543	
		%	10.3	60.1	25.6	96.0	4.0	100.0	
		%	10.7	62.6	26.7	100.0			
	s. 産業医・社内診療所医師・ 保健師	N	85	886	510	1481	62	1543	
		%	5.5	57.4	33.1	96.0	4.0	100.0	
		%	5.7	59.8	34.4	100.0			
その他	t. その他に HIV 陽性を 伝えている人								

注) この質問は関係する人の有無を考慮した再集計が必要。とくに配偶者については、配偶者の有無別に分析すると 83%は開示している

4) 医療・福祉・行政等の HIV 担当者を除くと、あなたが HIV 陽性を伝えている人は何人くらいいますか

	N	%	%
0人	257	16.7	17.1
1～4人	786	50.9	52.3
5～9人	294	19.1	19.6
10～29人	127	8.2	8.4
30人以上	39	2.5	2.6
合計	1503	97.4	100.0
無回答	40	2.6	
合計	1543	100.0	

5) 病気や障がいをもって生活する上で、ふだん制約を受けたり、自分で制約していると感じることがありますか

		かなり 制約あり	少し 制約あり	ほとんど 制約はない	まったく 制約はない	合計	無回答	合計
a. 生活習慣（食事・喫煙・飲酒など）	N	38	330	453	706	1527	16	1543
	%	2.5	21.4	29.4	45.8	99.0	1.0	100.0
	%	2.5	21.6	29.7	46.2	100.0		
b. 外出や行動の範囲	N	53	194	462	821	1530	13	1543
	%	3.4	12.6	29.9	53.2	99.2	0.8	100.0
	%	3.5	12.7	30.2	53.7	100.0		
c. 現在の働き方や学校生活	N	97	253	413	739	1502	41	1543
	%	6.3	16.4	26.8	47.9	97.3	2.7	100.0
	%	6.5	16.8	27.5	49.2	100.0		
d. 将来の働き方や進路、職業選択	N	191	372	343	598	1504	39	1543
	%	12.4	24.1	22.2	38.8	97.5	2.5	100.0
	%	12.7	24.7	22.8	39.8	100.0		
e. 家族や親戚との関係	N	135	266	440	681	1522	21	1543
	%	8.7	17.2	28.5	44.1	98.6	1.4	100.0
	%	8.9	17.5	28.9	44.7	100.0		
f. 友人との関係	N	93	273	476	679	1521	22	1543
	%	6.0	17.7	30.8	44.0	98.6	1.4	100.0
	%	6.1	17.9	31.3	44.6	100.0		
g. 恋人との関係や出会い	N	390	372	269	464	1495	48	1543
	%	25.3	24.1	17.4	30.1	96.9	3.1	100.0
	%	26.1	24.9	18.0	31.0	100.0		
h. 職場の人との関係	N	111	200	443	743	1497	46	1543
	%	7.2	13.0	28.7	48.2	97.0	3.0	100.0
	%	7.4	13.4	29.6	49.6	100.0		
i. 地域の人との関係	N	97	134	414	863	1508	35	1543
	%	6.3	8.7	26.8	55.9	97.7	2.3	100.0
	%	6.4	8.9	27.5	57.2	100.0		
j. 性生活	N	509	480	222	291	1502	41	1543
	%	33.0	31.1	14.4	18.9	97.3	2.7	100.0
	%	33.9	32.0	14.8	19.4	100.0		
k. 結婚すること	N	532	152	169	592	1445	98	1543
	%	34.5	9.9	11.0	38.4	93.6	6.4	100.0
	%	36.8	10.5	11.7	41.0	100.0		
l. 子を持つこと	N	602	145	144	555	1446	97	1543
	%	39.0	9.4	9.3	36.0	93.7	6.3	100.0
	%	41.6	10.0	10.0	38.4	100.0		

6) HIV 陽性とわかって以降この数年内の生活で、次のことをしたり感じたりしたことがありますか

		ある	ない	合計	無回答	合計
a. HIV が理由で 不本意に仕事を やめた	N	167	1353	1520	23	1543
	%	10.8	87.7	98.5	1.5	100.0
	%	11.0	89.0	100.0		
b. 知人に会う ことのない病院を 受診した	N	279	1239	1518	25	1543
	%	18.1	80.3	98.4	1.6	100.0
	%	18.4	81.6	100.0		
c. 病名を隠す ような言い訳を 考えた	N	980	543	1523	20	1543
	%	63.5	35.2	98.7	1.3	100.0
	%	64.3	35.7	100.0		
d. とくに病気を もっていないかの ようにふるまった	N	1107	413	1520	23	1543
	%	71.7	26.8	98.5	1.5	100.0
	%	72.8	27.2	100.0		

7) 現在、お住いの地域でしている付き合いはどれですか (複数回答)

	N	%	%
お茶や食事を一緒にする	472	30.6	31.1
趣味をともにする	267	17.3	17.6
相談事をする	182	11.8	12.0
困った時に助け合う	269	17.4	17.7
物をあげたり、もらったりする	369	23.9	24.3
地域の行事や催しに参加する	200	13.0	13.2
ちょっとした立ち話をする	480	31.1	31.6
あいさつを交わす	944	61.2	62.2
葬儀などの行事に参加する	187	12.1	12.3
いずれのつきあいもない	385	25.0	25.4
無回答	23	1.5	
合計	1543	1543	1520

8) 最近の生活で、HIV 陽性者であることで不利な状態におかれたり、これは差別的な対応や待遇ではないかと感じた経験がありますか

	N	%	%
よくある	36	2.3	2.4
時々ある	160	10.4	10.6
あまりない	552	35.8	36.5
まったくない	765	49.6	50.6
合計	1513	98.1	100.0
無回答	30	1.9	
合計	1543	100.0	

7. 世帯や生計、制度の利用

1) 現在、あなたが同居している人は誰ですか (複数回答)

	N	%	%
ひとり暮らし	723	46.9	47.1
夫・妻	218	14.1	14.2
パートナー・恋人	247	16.0	16.1
友人	20	1.3	1.3
子	108	7.0	7.0
父母	313	20.3	20.4
祖父母	13	0.8	0.8
きょうだい	71	4.6	4.6
その他	30	1.9	2.0
無回答	9	0.6	
合計	1543	1543	1534

2) 世帯全体の家計を「主に」支えている人は誰ですか (年金や生活保護が主な方は受給者)

	N	%	%
あなたご自身	1096	71.0	71.5
夫・妻	52	3.4	3.4
パートナー・恋人	58	3.8	3.8
友人	1	0.1	0.1
子	1	0.1	0.1
父母	152	9.9	9.9
祖父母	1	0.1	0.1
きょうだい	9	0.6	0.6
その他	33	2.1	2.2
あなたと同居者と等分	129	8.4	8.4
合計	1532	99.3	100.0
無回答	11	0.7	
合計	1543	100.0	

3) 昨年1年間の世帯全体の収入源について、あてはまるものすべてに○をつけて下さい（複数回答）

	N	%	%
自分の就労収入	1274	82.6	83.1
同居者の就労収入	397	25.7	25.9
仕送り・援助	53	3.4	3.5
事業・内職・農業収入	23	1.5	1.5
家賃・利子・配当金	99	6.4	6.5
預貯金の取りくずし	161	10.4	10.5
障害年金	109	7.1	7.1
その他の年金・恩給	200	13.0	13.0
失業給付	28	1.8	1.8
傷病手当	34	2.2	2.2
生活保護	101	6.5	6.6
薬害被害の健康管理費用	43	2.8	2.8
薬害被害の発症者健康管理手当	28	1.8	1.8
その他	28	1.8	1.8
無回答	9	0.6	
合計	1543	1543	1534

4) 上記3) で○をつけたもののうち「主な」収入源を1つ教えて下さい

	N	%	%
自分の就労収入	1054	68.3	69.4
同居者の就労収入	146	9.5	9.6
仕送り・援助	16	1.0	1.1
事業・内職・農林漁業収入	11	0.7	0.7
家賃・利子・配当金・株等	16	1.0	1.1
預貯金の取りくずし	43	2.8	2.8
障害年金	23	1.5	1.5
その他の年金・恩給	90	5.8	5.9
失業給付	6	0.4	0.4
傷病手当	3	0.2	0.2
生活保護	82	5.3	5.4
薬害被害の健康管理費用	0	0.0	0.0
薬害被害の発症者健康管理手当	12	0.8	0.8
その他	11	1.0	0.7
無回答	25	1.6	
合計	1543	1543	1518

5) 現在の暮らしの状況を総合的にみてどう感じていますか

	N	%	%
大変苦しい	154	10.0	10.0
やや苦しい	438	28.4	28.5
ふつう	663	43.0	43.2
ややゆとりがある	225	14.6	14.6
大変ゆとりがある	56	3.6	3.6
合計	1536	99.5	100.0
無回答	7	0.5	
合計	1543	100.0	

6) HIV 治療で利用している健康保険はどれですか

	N	%	%
組合保険	505	32.7	33.1
協会けんぽ	274	17.8	18.0
共済組合	85	5.5	5.6
その他被用者保険	21	1.4	1.4
国民健康保険	490	31.8	32.1
家族の保険の被扶養者	21	1.4	1.4
後期高齢者医療制度	35	2.3	2.3
加入していない	94	6.1	6.2
合計	1525	98.8	100.0
無回答	18	1.2	
合計	1543	100.0	

7) この1年間、健康保険組合や市区町村、職場の健康診断を受けましたか（診察や治療のための検査は除く）

	N	%	%
受けた	892	57.8	58.3
受けていない	637	41.3	41.7
合計	1529	99.1	100.0
無回答	14	0.9	
合計	1543	100.0	

8) 障害者手帳を取得していますか。

	N	%	%
取得している	1476	95.7	96.2
申請中	13	0.8	0.8
取得していない	45	2.9	2.9
合計	1534	99.4	100.0
無回答	9	0.6	
合計	1543	100.0	

8-1) 種障害者手帳の種類と等級を教えてください

	1. 免疫機能障害 / HIV			2. 肢体不自由			3. じん臓機能			4. 精神障害			5. 知的障害			6. その他		
	N	%	%	N	%	%	N	%	%	N	%	%	N	%	%	N	%	%
もっていない	33	2.1	2.2	1419	92.0	92.5	1460	94.6	95.2	1438	93.2	93.7	1462	94.8	95.3	1451	94.0	94.6
もっている	1430	92.7	93.2	44	2.9	2.9	3	0.2	0.2	25	1.6	1.6	1	0.1	0.1	12	0.8	0.8
1級	178	11.5	11.6	4	0.3	0.3	2	0.1	0.1							5	0.3	0.3
2級	564	36.6	36.8	13	0.8	0.8	1	0.1	0.1	12	0.8	0.8				4	0.3	0.3
3級	440	28.5	28.7	9	0.6	0.6	13	0.8	0.8	12	0.8	0.8				2	0.1	0.1
4級	219	14.2	14.3	12	0.8	0.8				1	0.1	0.1				1	0.1	0.1
5級	2	0.1	0.1	3	0.2	0.2												
6級				1	0.1	0.1												
7級				1	0.1	0.1												
等級不明	27	1.7	1.8	1	0.1	0.1							1	0.1	0.1			
無回答(種別)	13	0.8	0.8	13	0.8	0.8	13	0.8	0.8	13	0.8	0.8	13	0.8	0.8	13	0.8	0.8
非該当(主問:申請中)	13	0.8	0.8	13	0.8	0.8	13	0.8	0.8	13	0.8	0.8	13	0.8	0.8	13	0.8	0.8
非該当(主問:取得なし)	45	2.9	2.9	45	2.9	2.9	45	2.9	2.9	45	2.9	2.9	45	2.9	2.9	45	2.9	2.9
合計	1534	99.4	100.0	1534	99.4	100.0	1534	99.4	100.0	1534	99.4	100.0	1534	99.4	100.0	1534	99.4	100.0
無回答	9	0.6		9	0.6		9	0.6		9	0.6		9	0.6		9	0.6	
合計	1543	100.0		1543	100.0		1543	100.0		1543	100.0		1543	100.0		1543	100.0	

注) 免疫機能障害に5級の設定はないが、本人の回答のまま集計した

8-2) 取得していない理由を教えてください(複数回答)

	N	%	%	%
希望していないため	26	1.7	57.8	60.5
血液検査の結果が条件を満たさないため	4	0.3	8.9	9.3
HIV陽性とわかって間もないため	3	0.2	6.7	7.0
医師から勧められていないため	1	0.1	2.2	2.3
分からない	4	0.3	8.9	9.3
その他	5	0.3	11.1	11.6
無回答	2	0.1	4.4	
合計	45	2.9		
非該当(主問)	1489	96.5		
無回答(主問)	9	0.6		
合計	1543	100.0	45	43

注) 「その他」は、「あまり必要性を感じていないから」、「会社に知られるのがこわい」、「現在の保険でカバーされているため」、「職場にわからないように」、1名無回答

10) 今後、障害者雇用制度を利用する意向がありますか

	N	%	%
利用したい	210	13.6	13.8
利用してみてもよい	488	31.6	32.1
利用するつもりなし	824	53.4	54.1
合計	1522	98.6	100.0
無回答	21	1.4	
合計	1543	100.0	

9) 障害者雇用制度で就労したことがありますか

	N	%	%
かつてこの制度で就労していた	63	4.1	4.1
現在この制度で就労	101	6.5	6.6
ない	1228	79.6	80.3
制度を知らない	137	8.9	9.0
合計	1529	99.1	100.0
無回答	14	0.9	
合計	1543	100.0	

8. 働くことについて

1) HIV 陽性がわかった当時、収入をとまなう仕事をしていたか（自営の手伝いや内職も含む）

	N	%	%
していた（休職中を含む）	1344	87.1	87.4
していなかった	193	12.5	12.6
合計	1537	99.6	100.0
無回答	6	0.4	
合計	1543	100.0	

1-1) HIV 陽性とわかった当時の働き方

	N	%	%	%
主に就労	1190	77.1	88.5	88.8
家事などのかたわら就労	18	1.2	1.3	1.3
通学のかたわら就労	21	1.4	1.6	1.6
仕事を休んでいた、休職中	111	7.2	8.3	8.3
無回答	4	0.3	0.3	100.0
合計	1344	87.1	100.0	
非該当（主問）	193	12.5		
無回答（主問）	6	0.4		
合計	1543	100.0		

1-2) HIV 陽性とわかった当時の雇用形態（休職中だった方は休職前のこと）

	N	%	%	%
自営業（個人／家族経営）	143	9.3	10.6	10.7
事業主（従業員を雇用）	24	1.6	1.8	1.8
家族従業員	7	0.5	0.5	0.5
公務員（常勤）	90	5.8	6.7	6.8
企業・団体の役員	15	1.0	1.1	1.1
企業・団体の正社員	721	46.7	53.6	54.1
契約社員	112	7.3	8.3	8.4
嘱託職員	5	0.3	0.4	0.4
パート・アルバイト	143	9.3	10.6	10.7
派遣社員	64	4.1	4.8	4.8
その他	8	0.5	0.6	0.6
無回答	12	0.8	0.9	100.0
合計	1344	87.1	100.0	
非該当（主問）	193	12.5		
無回答（主問）	6	0.4		
合計	1543	100.0		

1-3)（HIV 陽性とわかった当時就労していなかった人へ）当時の職業は何でしたか

	N	%	%	%
専業主婦・主夫	5	0.3	2.6	2.8
学生	82	5.3	42.5	45.3
無職	92	6.0	47.7	50.8
その他	2	0.1	1.0	1.1
無回答	12	0.8	6.2	100.0
合計	193	12.5	100.0	
非該当（主問）	1344	87.1		
無回答（主問）	6	0.4		
合計	1543	100.0		

2) HIV 陽性とわかって以降、離職をしましたか。離職した方は、仕事をやめた回数を教えてください

	N	%	%
した	701	45.4	46.1
していない	820	53.1	53.9
合計	1521	98.6	100.0
無回答	22	1.4	
合計	1543	100.0	

2-S) 仕事をやめた回数

	N	%	%	%
1回	301	19.5	42.9	47.3
2回	152	9.9	21.7	23.9
3～4回	126	8.2	18.0	19.8
5回以上	57	3.7	8.1	9.0
無回答	65	4.2	9.3	100.0
合計	701	41.2	100.0	
非該当（主問）	820	53.1		
無回答（主問）	22	1.4		
合計	1543	100.0		

2-1) もっとも直近の離職は、何年くらい前でしたか

	N	%	%	%
1年未満	121	7.8	17.3	17.7
1年以上3年未満	157	10.2	22.4	23.0
3年以上5年未満	129	8.4	18.4	18.9
5年以上10年未満	147	9.5	21.0	21.5
10年以上	129	8.4	18.4	18.9
無回答	18	1.2	2.6	100.0
合計	701	45.4	100.0	
非該当（主問）	820	53.1		
無回答（主問）	22	1.4		
合計	1543	100.0		

2-2) もっとも直近の離職の理由は何でしたか（複数回答）

	N	%	%	%
会社の倒産・事業所閉鎖	32	2.1	4.6	4.6
人員整理・勸奨退職	45	2.9	6.4	6.5
事業不振や先行き不安	72	4.7	10.3	10.4
定年・雇用契約の満了	44	2.9	6.3	6.3
よりよい条件の仕事を探すため	209	13.5	29.8	30.1
仕事よりも健康や生活を重視して	87	5.6	12.4	12.5
体力的な問題	145	9.4	20.7	20.9
健康管理上の都合 (服薬・通院・入院など)	67	4.3	9.6	9.6
精神的な問題	205	13.3	29.2	29.5
職業訓練や技術習得	12	0.8	1.7	1.7
休職可能な期間を越えた治療が必要であった	17	1.1	2.4	2.4
HIV に対する偏見でいづらくなった	22	1.4	3.1	3.2
HIV による解雇	13	0.8	1.9	1.9
結婚・出産・育児・介護・ 看護のため	19	1.2	2.7	2.7
障害者枠で働くため	19	1.2	2.7	2.7
その他	105	6.8	15.0	15.1
無回答	6	0.4	0.9	
合計	701	45.4		
非該当（主問）	820	53.1		
無回答（主問）	22	1.4		
合計	1543	1543	701	695

注) その他には、やりがい、海外で働くため、薬物による受刑、パワーハラスメント等

3) 将来の生活で、あなたは働くことについてどのよう
にお考えですか

	N	%	%
とくに制限しないで、働いていきたい	836	54.2	54.7
健康状態に合わせた制限や調整をして、 働いていきたい	571	37.0	37.4
できれば働きたくない・働くつもりはない	120	7.8	7.9
合計	1527	99.0	100.0
無回答	16	1.0	
合計	1543	100.0	

4) HIV の主治医からは、あなたが働くことについて
何とされていますか

	N	%	%
とくに制限なく、働くことを すすめられている	779	50.5	51.1
時間や仕事内容を制限して 働くように言われている	72	4.7	4.7
働かない方がよいと言われている	4	0.3	0.3
とくに何も言われていない	669	43.4	43.9
合計	1524	98.8	100.0
無回答	19	1.2	
合計	1543	100.0	

5) HIV 陽性であることを伝えて、就学や就労、就職
について相談した先を教えてください（複数回答）

	N	%	%
友人	265	17.2	17.4
インターネット上の友人	32	2.1	2.1
パートナー・家族	304	19.7	20.0
医師	276	17.9	18.1
看護師・コーディネーター	208	13.5	13.7
医療相談員・ソーシャルワーカー	190	12.3	12.5
心理カウンセラー	107	6.9	7.0
保健所・保健センター	15	1.0	1.0
福祉事務所・市町村福祉担当	54	3.5	3.6
ハローワーク・職安	168	10.9	11.0
障害者職業センター	32	2.1	2.1
障害者対象の就職あっせん会社	73	4.7	4.8
ボランティア・患者支援団体	45	2.9	3.0
就労支援移行事業所	37	2.4	2.4
その他	22	1.4	1.4
誰にも相談していない	737	47.8	48.5
無回答	22	1.4	
合計	1543	1543	1521

9. 現在の仕事について

1) 先月末の1週間に、収入をとまなう就労をしまし
たか（自営の手伝いや内職も含む）

	N	%	%
主に就労	1175	76.2	76.3
家事等のかたわら就労	48	3.1	3.1
通学のかたわら就労	3	0.2	0.2
休んでいたか休職中	27	1.7	1.8
就労していない	286	18.5	18.6
合計	1539	99.7	100.0
無回答	4	0.3	
合計	1543	100.0	

10-1. 「就労した」方にかがいます

1-a) 先月末1週間の就労日数

	N	%	%	%
1.0	14	0.9	1.1	1.2
2.0	17	1.1	1.4	1.4
3.0	30	1.9	2.4	2.5
3.5	4	0.3	0.3	0.3
4.0	75	4.9	6.0	6.2
4.5	1	0.1	0.1	0.1
5.0	806	52.2	64.3	66.3
5.5	7	0.5	0.6	0.6
6.0	213	13.8	17.0	17.5
7.0	49	3.2	3.9	4.0
無回答	37	2.4	3.0	100.0
合計	1253	81.2	100.0	
非該当(非就労)	286	18.5		
無回答(主問)	4	0.3		
合計	1543	100.0		

1-a) 先月末1週間の就労時間

	N	%	%	%
10時間未満	126	8.2	10.1	11.7
20時間未満	50	3.2	4.0	4.6
30時間未満	47	3.0	3.8	4.4
40時間未満	166	10.8	13.2	15.4
50時間未満	450	29.2	35.9	41.7
60時間未満	124	8.0	9.9	11.5
60時間以上	88	5.7	7.0	8.1
休んでいた	29	1.9	2.3	2.7
無回答	173	11.2	13.8	100.0
合計	1253	81.2	100.0	
非該当(非就労)	286	18.5		
無回答(主問)	4	0.3		
合計	1543	100.0		

2) 先月1か月間に就労した日数を教えてください

	N	%	%	%
15日未満	79	5.1	6.3	6.4
20日未満	173	11.2	13.8	14.0
25日未満	787	51.0	62.8	63.6
25日以上	180	11.7	14.4	14.5
休んでいた	19	1.2	1.5	1.5
無回答	15	1.0	1.2	100.0
合計	1253	81.2	100.0	
非該当(非就労)	286	18.5		
無回答(主問)	4	0.3		
合計	1543	100.0		

3) この1年間に通院や入院、健康上の理由で仕事を休んだ日数：有給休暇

	N	%	%
休んでいない	1015	65.8	66.8
休んだ	505	32.7	33.2
合計	1520	98.5	100.0
無回答	23	1.5	
合計	1543	100.0	

この1年間に通院や入院、健康上の理由で仕事を休んだ日数：欠勤

	N	%	%
休んでいない	1356	87.9	89.2
休んだ	164	10.6	10.8
合計	1520	98.5	100.0
無回答	23	1.5	
合計	1543	100.0	

この1年間に通院や入院、健康上の理由で仕事を休んだ日数：傷病休暇

	N	%	%
休んでいない	1440	93.3	94.7
休んだ	80	5.2	5.3
合計	1520	98.5	100.0
無回答	23	1.5	
合計	1543	100.0	

この1年間に通院や入院、健康上の理由で仕事を休んだ日数：有給制度がない

	N	%	%
有給制度がある	1434	92.6	94.3
有給制度がない	86	5.6	5.7
合計	1520	98.5	100.0
無回答	23	1.5	
合計	1543	100.0	

この1年間に通院や入院、健康上の理由で仕事を休んだ日数：通院や健康上の理由では休んでいない

	N	%	%
休んだ	1004	65.1	66.1
休んでいない	516	33.4	33.9
合計	1520	98.5	100.0
無回答	23	1.5	
合計	1543	100.0	

4) この1年間の、あなたのすべての仕事からの収入(税込)は、どのくらいでしたか

	N	%	%	%
なし(0円)	10	0.6	0.8	0.8
～99万	81	5.2	6.5	6.5
100～199万	126	8.2	10.1	10.1
200～299万	221	14.3	17.6	17.8
300～399万	213	13.8	17.0	17.1
400～499万	188	12.2	15.0	15.1
500～699万	204	13.2	16.3	16.4
700～999万	118	7.6	9.4	9.5
1000～1499万	61	4.0	4.9	4.9
1500万以上	22	1.4	1.8	1.8
無回答	9	0.6	0.7	
合計	1253	81.2	100.0	
非該当(非就労)	286	18.5		
無回答(主問)	4	0.3		
合計	1543	100.0		

5) あなたの雇用形態はどれですか(休職中の方は復職前のこと)

	N	%	%	%
自営業(個人/家族経営)	158	10.2	12.6	12.7
事業主(従業員を雇用)	26	1.7	2.1	2.1
家族従業員	9	0.6	0.7	0.7
公務員(常勤)	69	4.5	5.5	5.5
企業・団体の役員	16	1.0	1.3	1.3
企業・団体の正社員	635	41.2	50.7	51.0
契約社員	100	6.5	8.0	8.0
嘱託職員	13	0.8	1.0	1.0
パート・アルバイト	144	9.3	11.5	11.6
派遣社員	59	3.8	4.7	4.7
内職	2	0.1	0.2	0.2
その他	15	1.0	1.2	1.2
無回答	7	0.5	0.6	100.0
合計	1253	81.2	100.0	
非該当(非就労)	286	18.5		
無回答(主問)	4	0.3		
合計	1543	100.0		

6) あなたの職種は何ですか

	N	%	%	%
専門・技術職	360	23.3	28.7	28.9
管理職	105	6.8	8.4	8.4
事務職	248	16.1	19.8	19.9
販売職	71	4.6	5.7	5.7
サービス職	274	17.8	21.9	22.0
保安職	17	1.1	1.4	1.4
農林漁業	3	0.2	0.2	0.2
生産工程	36	2.3	2.9	2.9
輸送・機械運転	25	1.6	2.0	2.0
建設・採掘	21	1.4	1.7	1.7
運搬・清掃・包装等	36	2.3	2.9	2.9
その他	51	3.3	4.1	4.1
無回答	6	0.4	0.5	100.0
合計	1253	81.2	100.0	
非該当(非就労)	286	18.5		
無回答(主問)	4	0.3		
合計	1543	100.0		

7) 勤務先(会社や団体全体、自営業)の従業員数は何人くらいですか

	N	%	%	%
1人(あなたのみ)	105	6.8	8.4	8.4
2～4人	73	4.7	5.8	5.9
5～9人	85	5.5	6.8	6.8
10～29人	154	10.0	12.3	12.3
30～99人	180	11.7	14.4	14.4
100～499人	234	15.2	18.7	18.8
500～999人	110	7.1	8.8	8.8
1000人以上	306	19.8	24.4	24.5
無回答	6	0.4	0.5	100.0
合計	1253	81.2	100.0	
非該当(非就労)	286	18.5		
無回答(主問)	4	0.3		
合計	1543	100.0		

8) 勤務先（会社や団体全体、自営業）の業種は何ですか

	N	%	%	%
農林水産	7	0.5	0.6	0.6
建設	63	4.1	5.0	5.1
製造	108	7.0	8.6	8.7
電気・ガス・水道	14	0.9	1.1	1.1
情報通信	102	6.6	8.1	8.2
運輸・郵便	57	3.7	4.5	4.6
卸売・小売	136	8.8	10.9	10.9
金融・保険	46	3.0	3.7	3.7
不動産・物品賃貸	19	1.2	1.5	1.5
宿泊・飲食	85	5.5	6.8	6.8
医療・福祉	165	10.7	13.2	13.2
生活サービス・娯楽	59	3.8	4.7	4.7
学術研究・専門・技術	43	2.8	3.4	3.4
教育・学習支援	65	4.2	5.2	5.2
その他サービス	160	10.4	12.8	12.8
公務	45	2.9	3.6	3.6
その他	73	4.7	5.8	5.9
無回答	6	0.4	0.5	100.0
合計	1253	81.2	100.0	
非該当（非就労）	286	18.5		
無回答（主問）	4	0.3		
合計	1543	100.0		

9) 主な仕事での働き方や職場について、次のことをどのくらい感じますか

		とても 感じる	少し 感じる	あまり 感じない	まったく 感じない	無回答	合計	非該当 (非就労)	無回答 (主問)	合計
a. 身体的、体力的なきつさ	N	165	478	384	220	6	1253	286	4	1543
	%	13.2	38.1	30.6	17.6	0.5	100.0			
	%	13.2	38.3	30.8	17.6	100.0				
b. 服薬のしにくさ	N	20	101	381	743	8	1253	286	4	1543
	%	1.6	8.1	30.4	59.3	0.6	100.0			
	%	1.6	8.1	30.6	59.7	100.0				
c. 通院のしにくさ	N	58	222	415	552	6	1253	286	4	1543
	%	4.6	17.7	33.1	44.1	0.5	100.0			
	%	4.7	17.8	33.3	44.3	100.0				
d. 職場の人間関係の良さ	N	223	380	423	210	16	1252	287	4	1543
	%	17.8	30.4	33.8	16.8	1.3	100.0			
	%	18.0	30.7	34.2	17.0	100.0				
e. 仕事のやりがいや面白さ	N	284	458	361	140	10	1253	286	4	1543
	%	22.7	36.6	28.8	11.2	0.8	100.0			
	%	22.8	36.8	29.0	11.3	100.0				
f. 全体的な働きやすさ	N	277	538	315	111	12	1253	286	4	1543
	%	22.1	42.9	25.1	8.9	1.0	100.0			
	%	22.3	43.4	25.4	8.9	100.0				
g. できればやめて、 別の仕事に変わりたい	N	213	289	302	444	5	1253	286	4	1543
	%	17.0	23.1	24.1	35.4	0.4	100.0			
	%	17.1	23.2	24.2	35.6	100.0				
h. HIV 感染症に対する 無理解や偏見	N	157	218	394	465	19	1253	286	4	1543
	%	12.5	17.4	31.4	37.1	1.5	100.0			
	%	12.7	17.7	31.9	37.7	100.0				
i. 性行動や性的指向（同性愛等） に対する偏見	N	196	295	363	382	17	1253	286	4	1543
	%	15.6	23.5	29.0	30.5	1.4	100.0			
	%	15.9	23.9	29.4	30.9	100.0				
j. 病名を隠すことの精神的負担	N	256	350	345	296	6	1253	286	4	1543
	%	20.4	27.9	27.5	23.6	0.5	100.0			
	%	20.5	28.1	27.7	23.7	100.0				
k. 知らない間に病名が 知られる不安	N	331	377	286	252	7	1253	286	4	1543
	%	26.4	30.1	22.8	20.1	0.6	100.0			
	%	26.6	30.3	23.0	20.2	100.0				

10-2. 「就労していない」方にうかがいます

1) 現在の職業はどれですか

	N	%	%	%
専業主婦・主夫	23	1.5	8.0	8.1
学生	5	0.3	1.7	1.8
無職	246	15.9	86.0	86.9
その他	9	0.6	3.1	3.2
無回答	3	0.2	1.0	100.0
合計	286	18.3	100.0	
非該当（就労中）	1253	81.2		
無回答（主問）	4	0.5		
合計	1543	1543	286	283

2) 就労していない理由を教えてください（複数回答）

	N	%	%	%
学生だから	4	0.3	1.4	1.4
家事や社会活動など他にすることがあるから	27	1.7	9.4	9.5
資格取得や進学準備のため	10	0.6	3.5	3.5
経済的に困らないから	34	2.2	11.9	12.0
定年退職したから	29	1.9	10.1	10.2
年齢が高いから	76	4.9	26.6	26.9
HIV 感染症による体調不良のため	56	3.6	19.6	19.8
HIV と関係の無い体調不良	54	3.5	18.9	19.1
精神的な問題のため	78	5.1	27.3	27.6
就職先が決まらないから	55	3.6	19.2	19.4
仕事をする自信がないから	70	4.5	24.5	24.7
その他	34	2.2	11.9	12.0
無回答	3	0.2	1.0	
合計	286	18.5		
非該当（就労中）	1253	81.2		
無回答（主問）	4	0.3		
合計	1543	1543	286	283

3) 現在、仕事探しや自営業の準備をしていますか

	N	%	%	%
仕事を探している	56	3.6	19.6	20.0
自営業の準備をしている	11	0.7	3.8	3.9
就労のための準備をしている	42	2.7	14.7	15.0
とくに何もしていない	171	11.1	59.8	61.1
無回答	6	0.4	2.1	100.0
合計	286	18.5	100.0	
非該当（就労中）	1253	81.2		
無回答（主問）	4	0.3		
合計	1543	1543	286	280

4) 現在、就労する希望がありますか

	N	%	%	%
ある	157	10.2	54.9	55.9
ない	124	8.0	43.4	44.1
無回答	5	0.3	1.7	100.0
合計	286	18.5	100.0	
非該当（就労中）	1253	81.2		
無回答（主問）	4	0.3		
合計	1543	1543	286	281

5) 就労を希望しているにもかかわらず、就労していない期間はどれくらいになりますか

	N	%	%	%
1ヶ月未満	3	0.2	1.0	1.1
1ヶ月～	11	0.7	3.8	4.0
3ヶ月～	17	1.1	5.9	6.2
6ヶ月～	22	1.4	7.7	8.0
1年～	58	3.8	20.3	21.0
3年～	29	1.9	10.1	10.5
5年～	65	4.2	22.7	23.6
10年以上	71	4.6	24.8	25.7
無回答	10	0.6	3.5	100.0
合計	286	18.5	100.0	
非該当（就労中）	1253	81.2		
無回答（主問）	4	0.3		
合計	1543	1543	286	276

11. 高齢期の生活や介護

1) あなたは、高齢期の生活や介護が必要になった時のために、備えをしていますか

	N	%	%
かなりしている	30	1.9	2.0
ある程度している	341	22.1	22.2
あまりしていない	577	37.4	37.6
まったくしていない	588	38.1	38.3
合計	1536	99.5	100.0
無回答	7	0.5	
合計	1543	100.0	

2) 現在、あなたご自身は、次の訪問サービスや通所サービスを利用していますか（複数回答）

	N	%	%
訪問看護	18	1.2	1.2
ホームヘルパー (訪問介護・居宅介護)	7	0.5	0.5
訪問リハビリ	3	0.2	0.2
精神科デイケア・ 通所リハビリテーション	9	0.6	0.6
就労継続支援 (A型・B型) サービス	7	0.5	0.5
就労移行支援サービス	10	0.6	0.7
その他訪問・通所サービス	2	0.1	0.1
どれも利用していない	1473	95.5	96.8
無回答	22	1.4	
合計	1543	1543	1521

3) 将来、もし介護が必要になったら、どこで生活したいですか（主なもの1つに○）

	N	%	%
介護保険の施設	320	20.7	21.2
有料老人ホーム等の高齢者専用住宅	327	21.2	21.6
病院などの医療機関	245	15.9	16.2
自宅（親・子どもの自宅を含む）	522	33.8	34.5
その他	97	6.3	6.4
合計	1511	97.9	100.0
無回答	32	2.1	
合計	1543	100.0	

注)「その他」には、まだ考えていない、分からない、死ぬ、
ゲイ専門の老人ホーム等

4) 将来、もし介護が必要になったら、誰に介護をしてもらいたいですか（複数回答）

	N	%	%
パートナー・配偶者	503	32.6	33.1
子ども	54	3.5	3.6
子の配偶者	7	0.5	0.5
きょうだい	79	5.1	5.2
そのほかの家族・親族	27	1.7	1.8
以前のパートナー・配偶者	24	1.6	1.6
友人・知人	76	4.9	5.0
ヘルパーなど介護サービスの人	668	43.3	43.9
その他	32	2.1	2.1
いずれにも頼らない	390	25.3	25.6
無回答	22	1.4	
合計	1543	1543	1521

5) 現在または将来、介護サービスを利用するにあたって心配なことはありますか（複数回答）

	N	%	%
費用	1208	78.3	79.4
介護サービスの質	467	30.3	30.7
個人情報・プライバシーが守られるか	538	34.9	35.4
HIV 感染症治療へのアクセス	621	40.2	40.8
HIV に関するサービス提供者の理解	773	50.1	50.8
セクシュアリティに関するサービス提供者の理解	439	28.5	28.9
その他	8	0.5	0.5
心配なことはない	115	7.5	7.6
無回答	22	1.4	
合計	1543	1543	1521

12. HIV/ エイズ対策などの評価

1) 日本の HIV/ エイズ関連の対策について：陽性者への治療や医療体制

		整っている	まあ 整っている	あまり 整っていない	整っていない	合計	無回答	合計
a. HIV 陽性者への治療や医療体制	N	717	682	106	20	1525	18	1543
	%	46.5	44.2	6.9	1.3	98.8	1.2	100.0
	%	47.0	44.7	7.0	1.3	100.0		
b. HIV 陽性者への就労や 社会参加の支援体制	N	152	514	636	182	1484	59	1543
	%	9.9	33.3	41.2	11.8	96.2	3.8	100.0
	%	10.2	34.6	42.9	12.3	100.0		
c. 職場の HIV/ エイズ対策	N	56	192	593	639	1480	63	1543
	%	3.6	12.4	38.4	41.4	95.9	4.1	100.0
	%	3.8	13.0	40.1	43.2	100.0		
d. HIV 陽性者が子どもをもつ 選択に対する環境	N	52	216	653	540	1461	82	1543
	%	3.4	14.0	42.3	35.0	94.7	5.3	100.0
	%	3.6	14.8	44.7	37.0	100.0		
e. HIV/ エイズ対策に、陽性者の 意見を反映させる体制	N	54	311	717	393	1475	68	1543
	%	3.5	20.2	46.5	25.5	95.6	4.4	100.0
	%	3.7	21.1	48.6	26.6	100.0		
f. HIV 感染予防の教育や啓発	N	96	442	626	338	1502	41	1543
	%	6.2	28.6	40.6	21.9	97.3	2.7	100.0
	%	6.4	29.4	41.7	22.5	100.0		
g. 社会での HIV/ エイズへの 理解や偏見の解消	N	29	150	636	690	1505	38	1543
	%	1.9	9.7	41.2	44.7	97.5	2.5	100.0
	%	1.9	10.0	42.3	45.8	100.0		
h. 公的機関の職員の HIV/ エイズへの理解や 偏見の解消	N	46	310	639	503	1498	45	1543
	%	3.0	20.1	41.4	32.6	97.1	2.9	100.0
	%	3.1	20.7	42.7	33.6	100.0		
i. 学校での性的マイノリティ (同性愛など) への理解や 偏見の解消	N	29	176	661	615	1481	62	1543
	%	1.9	11.4	42.8	39.9	96.0	4.0	100.0
	%	2.0	11.9	44.6	41.5	100.0		

13. ドラッグや薬物

1) これまでに、ドラッグや薬物を使ったことがありますか

	N	%	%
ある	706	45.8	46.1
なし	826	53.5	53.9
合計	1532	99.3	100.0
無回答	11	0.7	
合計	1543	100.0	

1-1) 次のドラッグや薬物を使った経験を教えてください

	該当薬物の使用経験あり				使った事がない	いずれの薬物も経験なし	合計	無回答	無回答(主問)	合計
	小計	この1か月に使った	この1年に使った	1年以上前に使った						
a. 危険(脱法)ドラッグ (ハーブ・リキッド・パウダー・アロマ・ソルト)	229 15.3 33.9	1 0.1 0.1	7 0.5 1.0	221 14.7 32.7	446 29.7 66	826 55.0	1501 100.0 100.0	31	11	1543
b. 5MeO-DIPT (ゴメオ・フォクシー)	344 22.8 50.5	0 0.0 0.0	3 0.2 0.4	341 22.6 50.1	337 22.4 49	826 54.8	1507 100.0 100.0	25	11	1543
c. ラッシュ (亜硝酸アミル系・ポッパー・RUSH)	658 43.5 95.8	24 1.6 3.5	47 3.1 6.8	587 38.8 85.4	29 1.9 4	826 54.6	1513 100.0 100.0	19	11	1543
d. ガス (エアードスター・ライターガス)	153 10.2 22.7	5 0.3 0.7	9 0.6 1.3	139 9.3 20.6	521 34.7 77	826 55.1	1500 100.0 100.0	32	11	1543
e. 大麻 (マリファナ・ハシッシ・ハッパ)	146 9.7 21.5	3 0.2 0.4	7 0.5 1.0	136 9.0 20.0	533 35.4 78	826 54.9	1505 100.0 100.0	27	11	1543
f. 覚せい剤 (シャブ・エス・スピード・ヒロボン)	211 14.0 30.8	14 0.9 2.0	37 2.4 5.4	160 10.6 23.4	474 31.4 69	826 54.7	1511 100.0 100.0	21	11	1543
g. MDMA (エクスタシー・X・バツ・アダム)	88 5.9 13.1	0 0.0 0.0	4 0.3 0.6	84 5.6 12.5	583 38.9 87	826 55.2	1497 100.0 100.0	35	11	1543
h. その他あれば教えてください	11名(コカイン(5)、ヘロイン(4)、LSD(4)など)									

1-2) 次のようにドラッグや薬物を使った経験を教えてください

	該当薬物の使用経験あり				使った事がない	いずれの薬物も経験なし	合計	無回答	無回答(主問)	合計
	小計	この1か月に使った	この1年に使った	1年以上前に使った						
a. 注射針を用いた使用	194 12.8 28.1	12 0.8 1.7	37 2.4 5.4	145 9.6 21.0	497 32.8 72	826 54.4	1517 100.0 100.0	15	11	1543
b. セックスの時の使用	650 42.7 93.3	24 1.6 3.4	66 4.3 9.5	560 36.8 80.3	47 3.1 7	826 54.2	1523 100.0 100.0	9	11	1543
c. 気持ちを上げる・アップするための使用	293 19.4 42.7	13 0.9 1.9	32 2.1 4.7	248 16.4 36.2	392 25.9 57	826 54.6	1512 99.9 99.9	20	11	1543

1-3) 次のドラッグや薬物をはじめて使ったのは、ご自身の HIV 感染を知る前でしたか、知った後でしたか

	該当薬物の使用経験あり		使った事がない	いずれの薬物も経験なし	合計	無回答	無回答 (主問)	合計
	HIV 感染を知る前	HIV 感染を知った後						
a. 危険 (脱法) ドラッグ / ラッシュ	581	60	50	826	1517	15	11	1543
	38.3	4.0	3.3	54.4	100.0			
	84.1	8.7	7.2		100.0			
b. 5MeO - DIPT / 大麻 / 覚せい剤 / MDMA	339	77	270	826	1512	20	11	1543
	22.4	5.1	17.9	54.6	100.0			
	49.4	11.2	39.4		100.0			
c. 注射器・注射針を使ったドラッグ	116	78	497	826	1517	15	11	1543
	7.6	5.1	32.7	54.4	100.0			
	16.8	11.3	71.9		100.0			

1-4) ドラッグや薬物を使う量や回数について、ご自身でコントロール・調整できていますか

	N	%	%	
できている	480	31.1	68.0	71.6
おおそできている	116	7.5	16.4	17.3
あまりできていない	48	3.1	6.8	7.2
できていない	26	1.7	3.7	3.9
無回答	36	2.3	5.1	
合計	706	45.8		
非該当 (主問: いずれの薬物も経験なし)	826	53.5		
無回答 (主問)	11	0.7		
合計	1543	100.0	706	670

1-5) 今後、ドラッグや薬物の使用について、どのようになりたいとお考えですか

	N	%	%	
もっと使いたい	10	0.6	1.4	1.4
今のまま使いたい	30	1.9	4.3	4.3
減らして使いたい	39	2.5	5.5	5.6
使うのをやめたい	40	2.6	5.7	5.8
すでにやめた	573	37.1	81.3	82.8
無回答	13	0.8	1.8	
合計	705	45.7		
非該当 (主問: いずれの薬物も経験なし)	826	53.5		
無回答 (主問)	11	0.7		
合計	1543	100.0	705	692

2) 危険ドラッグ、5MeO-DIPT、あるいはラッシュを使用したことのある方に伺います。これらのドラッグを入手しづらくなったことはありますか? その際、どうしましたか (複数回答)

	N	%	%
他のドラッグを使用した	117	16.6	17.6
海外で入手した	48	6.8	7.2
使うのをやめた	240	34.0	36.0
その他	34	4.8	5.1
入手しづらくなったことはない	8	1.1	1.2
既にやめていた	285	40.4	42.8
無回答	40	5.7	
合計	706	706	666

注) 「その他」は、自分で入手したことがない (13)、他者・知人・友人から (11)、など

2-1) 使用したのはどれですか (複数回答)

	N	%	%	%
大麻	16	2.3	2.4	13.7
覚せい剤	74	10.5	11.1	63.2
MDMA	11	1.6	1.7	9.4
ヘロイン	2	0.3	0.3	1.7
コカイン	5	0.7	0.8	4.3
ぼつき薬・ED 薬	65	9.2	9.8	55.6
咳止め	3	0.4	0.5	2.6
ガス	21	3.0	3.2	17.9
シンナー	2	0.3	0.3	1.7
その他	3	0.4	0.5	2.6
無回答	0	0.0	0.0	
無回答 (主問)	40	5.7		
合計	706	706	666	117

14. HIVとわかった当時から現在までのこと

1) HIV 陽性とわかった時の最初の検査は、次のうちどれでしたか

	N	%	%
保健所	315	20.4	20.5
常設検査施設	106	6.9	6.9
イベントでの検査	24	1.6	1.6
診療所・クリニック	186	12.1	12.1
病院（外来）	456	29.6	29.7
病院（入院）	320	20.7	20.8
自己検査キット	11	0.7	0.7
郵送検査キット	24	1.6	1.6
妊娠・出産時の検査	4	0.3	0.3
献血	60	3.9	3.9
職場の健康診断	7	0.5	0.5
その他	22	1.4	1.4
合計	1535	99.5	100.0
無回答	8	0.5	
合計	1543	100.0	

2) HIV 陽性告知を受けたのはいつでしたか

	N	%	%
～1990	47	3.0	3.2
～1995	55	3.6	3.8
～2000	122	7.9	8.4
～2005	195	12.6	13.4
～2010	360	23.3	24.7
～2015	375	24.3	25.8
～2020	301	19.5	20.7
合計	1455	94.3	100.0
無回答	88	5.7	
合計	1543	100.0	

3) HIV 陽性告知を受けた際、エイズを発症していましたか

	N	%	%
発症していた	313	20.3	20.4
発症していなかった	1119	72.5	73.0
わからない	101	6.5	6.6
合計	1533	99.4	100.0
無回答	10	0.6	
合計	1543	100.0	

4) HIV 陽性告知を受ける前、HIV に感染している可能性はどの程度あるとお考えでしたか

	N	%	%
かなりある	162	10.5	10.6
ある程度ある	612	39.7	40.0
ほとんどない	443	28.7	29.0
まったくない	313	20.3	20.5
合計	1530	99.2	100.0
無回答	13	0.8	
合計	1543	100.0	

5) HIV 陽性告知を受けた病院や保健所は、どこにありましたか

略

6) では、いま現在、HIV 治療で主に受診している医療機関はどこにありますか

略

7) HIV 感染症の受診に、半年以上の間、行かなかったことがありますか

	N	%	%
ある	143	9.3	9.3
ない	1390	90.1	90.7
合計	1533	99.4	100.0
無回答	10	0.6	
合計	1543	100.0	

7-1) 受診に行かなかった時期：今から何年くらい前のことですか

	N	%	%	%
この1年内のこと	13	0.8	9.1	9.4
1年～3年くらい前	25	1.6	17.5	18.0
3年～5年くらい前	20	1.3	14.0	14.4
5年以上前	81	5.2	56.6	58.3
無回答	4	0.3	2.8	
合計	143	9.3	100.0	100.0
非該当（主問）	1390	90.1		
無回答	10	0.6		
合計	1543	100.0	143	139

7-2) 半年以上受診しなかった理由を教えてください(複数回答)

	N	%	%
忙しかったから	37	2.4	26.8
時間が合わなかったから	21	1.4	15.2
お金がかかるから	34	2.2	24.6
免疫が高かったから	19	1.2	13.8
服薬していなかったから	35	2.3	25.4
症状がなかったから	33	2.1	23.9
治療する意欲がなかった	43	2.8	31.2
精神的な問題	35	2.3	25.4
その他	26	1.7	18.8
合計	138		
無回答	5		
非該当(主問)	1390		
無回答(主問)	10		
合計	1543	1543	138

8) HIV 陽性告知を受けて以降、転居しましたか

	N	%	%
転居した	753	48.8	49.5
転居していない	769	49.8	50.5
合計	1522	98.6	100.0
無回答	21	1.4	
合計	1543	100.0	

8-1) 転居した理由は何でしたか(複数回答)

	N	%	%
HIV の治療のため	49	3.2	6.6
福祉サービスの質や種類のため	31	2.0	4.2
生活の改善のため	230	14.9	30.8
仕事の都合	302	19.6	40.5
家族・パートナーの都合	157	10.2	21.0
HIV のため居づらくなったため	20	1.3	2.7
転居先に友人や支援者がいる	13	0.8	1.7
その他	121	7.8	16.2
合計	746		
無回答	7		
非該当(主問)	769		
無回答(主問)	21		
合計	1543	1543	746

9) HIV 陽性告知を受けた時の居住地は、どこでしたか

略

10) 現在の居住地は、どこですか

略

15. ご自身のことについて

1) 戸籍上の性別

	N	%	%
男性	1468	95.1	95.5
女性	69	4.5	4.5
合計	1537	99.6	100.0
無回答	6	0.4	
合計	1543	100.0	

2) あなたは以下のどれにあてはまりますか(主なものの1つ)

	N	%	%
異性愛者	207	13.4	13.6
バイセクシュアル(両性愛者)	205	13.3	13.4
同性愛者	1033	66.9	67.6
トランスジェンダー	8	0.5	0.5
決めたくない	48	3.1	3.1
その他	26	1.7	1.7
合計	1527	99.0	100.0
無回答	16	1.0	
合計	1543	100.0	

3) 年齢

	N	%	%
20-29	66	4.3	4.4
30-39	317	20.5	21.3
40-49	568	36.8	38.2
50-59	341	22.1	22.9
60-69	151	9.8	10.1
70-79	41	2.7	2.8
80-	4	0.3	0.3
合計	1488	96.4	100.0
無回答	55	3.6	
合計	1543	100.0	

4) あなたの HIV 感染経路と思うもの（複数回答）

	N	%	%
異性間の性的接触	186	12.1	12.1
同性間の性的接触	1252	81.1	81.8
注射器の共用	42	2.7	2.7
血液凝固因子製剤	72	4.7	4.7
血液凝固因子製剤の二次・三次感染	3	0.2	0.2
輸血	15	1.0	1.0
その他	6	0.4	0.4
不明	66	4.3	4.3
無回答	12	0.8	
合計	1543	1543	1531

5) 日本の法律における、現在の婚姻状態を教えてください

	N	%	%
結婚している	232	15.0	15.1
離婚	93	6.0	6.1
死別	10	0.6	0.7
未婚	1198	77.6	78.1
合計	1533	99.4	100.0
無回答	10	0.6	
合計	1543	100.0	

6) 現在、次のうちあてはまるものはありますか（複数回答）

	N	%	%
同性パートナーシップを登録した（国内）	9	0.6	0.6
同性パートナーシップを登録した（海外）	2	0.1	0.1
海外で結婚した	10	0.6	0.7
事実婚	67	4.3	4.4
いずれもあてはまらない	1419	92.0	94.2
無回答	37	2.4	
合計	1543	1543	1506

7) 最終学歴（学生の方は在学先）

	N	%	%
小・中学校	46	3.0	3.0
高校	375	24.3	24.5
専門学校	268	17.4	17.5
短大・高専	59	3.8	3.9
大学	679	44.0	44.4
大学院	104	6.7	6.8
合計	1531	99.2	100.0
無回答	12	0.8	
合計	1543	100.0	

8) 上記の学校の在学・卒業

	N	%	%
在学中（休学を含む）	13	0.8	0.9
卒業	1355	87.8	91.4
中退	114	7.4	7.7
合計	1482	96.0	100.0
無回答	61	4.0	
合計	1543	100.0	

9) 国籍

	N	%	%
日本	1507	97.7	98.2
日本以外	27	1.7	1.8
合計	1534	99.4	100.0
無回答	9	0.6	
合計	1543	100.0	

10) 世間一般の暮らしぶりを6つに区分すると、あなたの世帯はどの辺りにあてはまると思いますか

	N	%	%
上の上	10	.6	.7
上の下	52	3.4	3.4
中の上	497	32.2	32.5
中の下	581	37.7	38.0
下の上	277	18.0	18.1
下の下	110	7.1	7.2
合計	1527	99.0	100.0
無回答	16	1.0	
合計	1543	100.0	

11) ご自身の将来の生活設計について、何年くらい先のことまで考えていますか

	N	%	%
1年未満	135	8.7	8.8
1年～5年未満	409	26.5	26.7
5年～10年未満	344	22.3	22.5
10年～20年未満	220	14.3	14.4
20年以上先	133	8.6	8.7
考えたことがない	289	18.7	18.9
合計	1530	99.2	100.0
無回答	13	0.8	
合計	1543	100.0	

自由記述の回答について

本調査では、自由記述で回答を求める自由回答の質問を4項目設けた。自由回答としては高い回答率であり、欄外に及ぶ長文の記述もみられた。回答して下さった方々の率直な声や意見が述べられている。本報告書は、紙面の関係から一部の回答のみ紹介した概要版であり、別報としてすべての回答を掲載した報告書を発行する予定である。

1. Q6-8 差別的な対応や待遇について
2. Q11-6 高齢期の生活に備えていること
3. Q13-3 薬物やドラッグについて
4. Q15-12 他の陽性者や一般の人々に伝えたいこと(1~3は、アンケート調査の結果と合わせて読んで頂きたい)

1、2は齋藤可夏子、4は大島岳が集計・執筆を担当した。

【記述と属性】

- 回答の記述は、誤字や脱字の修正はせずに原文のまま記載した。
- 個人情報を含む記載、回答内容や属性から個人が推定される可能性がある場合は加筆し、その旨記載した。
- 年齢：10歳階級に変更した年代。回答中の年齢は「**」に変換。
- 性別：本調査ではセクシャリティは別項目で調査したため、戸籍上の性別を記載。
- 感染経路：異性間(の性的接触)、同性間(の性的接触)、非加熱血液製剤、その他の4種にして記載。両性間の性的接触は同性間に含めた。

【記載内容の分類方法】

- 本報告ではA調査(ブロック拠点病院調査)とB調査(診療所調査)の区別はせず、両方の調査結果を合わせて分類した。
- 内容分類については、記述を機械的に分類するパソコンソフトを使用した結果を参考にし、うえて掲載した項目もある。
- 複数に分類される項目が少なくないため、回答数は参考値である。

自由回答【Q6-8 差別的な対応や待遇】

「Q6-8 最近の生活で、HIV 陽性者であることで不利な状態におかれたり、これは差別的な対応や待遇ではないかと感じた経験がありますか」という設問について回答内容を分類した。

回収票 1543 票のうち「よくある」(2.3%)または「時々ある」(10.4%)と答えた方 196 名に対する、「Q6-8-1 誰から / どのような機関で、そのような対応や待遇を受けましたか」という自由回答の設問の回答内容を分類した。感染症による差別経験は本来一度でもあってはならない経験が多いため、主問で「よくある / 時々ある」という選択肢に回答した人に限定した設問としたことは、調査票設計上に問題がある。そこで、本報告では、「あまりない」と回答した人や、主問に無回答の人で記述していた 16 名の記載も含めることとし、すべての記載 212 票を対象に分析した。

回答内容について以下の 13 項目に分類した。複数に分類した回答も含めている。

- (1) 「医療機関で受けた差別」
- (2) 「職場で受けた差別」
- (3) 「就職活動中に受けた差別」
- (4) 「公的機関で受けた差別」
- (5) 「介護・地域生活・日常生活で受けた差別的な対応」
- (6) 「ネット上で受けた差別」
- (7) 「親族、パートナー、友人、知人から受けた差別」
- (8) 「パートナー探しにおける不利や差別」
- (9) 「保険契約に関する差別」
- (10) 「自身の HIV 陽性を周囲にバラされた経験」
- (11) 「偏見や差別的な言動を見聞きした経験」
- (12) 「自身の HIV 陽性が周囲に知られることへの不安や抵抗を感じた経験」
- (13) 「その他」

(1) 「医療機関で受けた差別」 66 票

回答の内容としては、この項目に関するものが最も多かった。「緊急で近くの病院を診察した時、HIV である事を伝えたら冷たい態度をされた。対応が悪く扱われた。(30 代、男性、同性間)」、「肛門科にて、痔の手術の話になったとき、『HIV 患者の手術はできない』と言われた。それ以来、病名は自ら率先して言わないようにしている。(男性、30 代、同性間)」、といったものをはじめ、「過去にデンタルクリニックで HIV であることを告げたところ、しばらく待たされた後、受診できないと言われたことがあります(略)。(男性、40 代、同性間)」など、歯科で受けた差別に関する回答が目立つ。

【主な回答】

- ・「HIV 専門科のある病院での皮膚科の受診時に、全ったく手を触れずらくに手の湿疹も見ずに終了。あからさまにイヤな態度をされた。」(男性、50 代、感染経路の記載なし)
- ・「ガラスで手を切った際に近所の外科医で、HIV 感染を伝えたら受診を断られた」(男性、50 代、同性間)
- ・「数年前皮膚科の診療で背中に塗る薬を出されたがその場で塗ってもらえなかった。どうやって塗るのでしょうか。」(男性、40 代、血液凝固因子製剤)
- ・「以前、歯科医に告げた際、満足な治療を受けられなかった。」(男性、30 代、同性間)
- ・「歯科での受診拒否(男性、50 代、同性間)」
- ・「ヘルニアの治療を拒否された。」(男性、40 代、同性間)

(2) 「職場で受けた差別」 22 票

「仕事先の上司から『100%感染しない確承はない』と言われ、不本意ながら仕事を辞めた。(男性、50 代、同性間)」という回答や、「表向きは私の不安障害のため早期退職を求めた形だが、HIV を直上の上司が知って数ヶ月後にリストラされた(10 年前) (男性、40 代、同性間)」という回答など、HIV 感染を理由に不本意な

リストラ、退職を余儀なくされた例が見受けられた。

また、「会社の上司。消毒液をかけられたり、ここでは書けないような言葉をあびせられる。(男性、30代、同性間)」などのように、職場で HIV 感染を理由にいじめの被害に遭ったという回答もみられた。さらに、「仕事で中国転勤を打診され、中国で HIV を治療継続することの難しさを理解してもらえず離職となった(男性、50代、同性間)」という回答からは、海外における HIV 治療の難しさや、治療と仕事の両立に対する理解が浸透していないことが浮き彫りとなった。

【主な回答】

- ・「障害者雇用で入社した会社で1フロア100人以上に病気を開示する事を求められた。」(男性、40代、同性間)
- ・「陽性発覚後に入社した会社：決定研修中に障害者手帳(免疫不全 / 3級)を所持していることを申告。手帳を提示→研修後初回の勤務後 HIV を理由に研修担当者の独断で退職勧奨をされた。その場での退職には至らなかったが鬱を煩い欠勤が多くなってしまい再度退職勧奨があり退職。」(男性、30代、同性間)
- ・「最近ではないが、数年前、エイズ発症し、職場の上司が入院先の病院名から色々とかぎまわり、こちらが HIV やエイズかと想像し、直接電話で問われこちらも動揺していた為素直に答えたら、即退職ではないが、辞めてくれと言われた(食品を扱う客商売で、従業員から客、地域にあらぬうわさが広がる恐れありと直接言われた事)」(男性、40代、同性間・その他)

(3)「就職活動中に受けた差別」10票

「仕事を新たに探す際、病気のことがネックになり、中々活動しにくさを感じる。(男性、30代、同性間)」、「就活時、病名がわかるとほぼ不採用になる。(男性、50代、感染経路の記載なし)」など、就職活動のしずらさを訴える回答は複数見受けられた。また、「HIV をオープンにして、障害者雇用の面接を受けた際に、感染理由をしつこく聞かれ、不愉快な面接を受けたことがあります。(略) (男性、30代、同性間)」など、障がい者雇用制度を利用した就職においても差別を受けたり、不愉快な思いをしたことがあるという回答も

あった。

【主な回答】

- ・「就職活動をしている中で障害の受傷時の状況、理由、原因を詳細に聞かれます。面接で回答しない訳にいかないのととても辛いです。障害者向けの面接のフォーマットになっているようです。仕事をできるかどうかで判断されていないようです。」(男性、40代、同性間)
- ・「転職の面接で、持病を持っているかと聞かれる。(数社)正直に話をしたら、不採用になった。ダメだった理由を聞き出したら、HIV が原因だった。。。それ以来面接が怖くて就職出来なくなった。(略)」(男性、30代、同性間)
- ・「転職活動で免疫に関する障害者は雇用しない方針であると伝えられた。」(男性、40代、同性間)
- ・「就職活動中、最終面接で HIV 陽性である事を伝えたらそれが理由でお見送りとなった。」(女性、30代、異性間)

(4)「公的機関で受けた差別」6票

「役所で他人の多くいる前で病名を言わされた。(男性、40代、同性間)」、「自立支援の手続き時に市役所に行くとき窓口で手続きの申請用紙を作成し別の場所(個室)で行っていただきたいと毎年思う。周りから見られている感じがする。(男性、40代、同性間)」など、役所等での手続きの際に感じた差別や、周りの目を気にするような内容の回答が複数見受けられた。留置所や刑務所内での処遇についての指摘も複数みられた。

【主な回答】

- ・「身体障害者手帳を提示して公的サービス(公的機関が運営する施設)を利用する際病名が記載してあるページがわかるような形での提示を求められた。(神戸市)」(属性略)
- ・「生活苦で生活保護相談に行き、病気(HIV+手術歴)は親には極秘だと言っているのに、寧ろそれを逆に『こういう病気で生活苦に陥った』と親に言わなきゃ申請もさせないとマウント取られた。」(女性、40代)
- ・「刑務所内での処遇、雑居に入れてくれなかった。」

(男性、40代、同性間)

・「留置所にいる時にお風呂の順番がいつも一番最後だった。」(男性、30代、同性間)

(5)「介護・地域生活・日常生活で受けた差別的な対応」14票

介護サービスを含む日常生活、地域生活において受けた差別的な対応についての回答も複数見受けられた。医薬品医療機器総合機構からの差別的な対応の指摘もあった。これら機関は、HIVに関する個人情報伝えた上でかかわる機関であり、適切な対応が求められる。

【主な回答】

・「デイサービス入浴時1人だけ別の浴槽(男性、60代、同性間)」
・「薬局で、薬剤師になげるように薬や、お金を出されたこと。(中略)とても不快になった。それから通っていない所では薬手帳を出さないようになってしまった。(男性、30代、同性間)」

(6)「ネット上で受けた差別」6票

ネット上で受けた差別についても、複数の回答が見られた。「誰でも見れる掲示板で中傷を受けました。自宅住所と顔写真の公開。またゲイバー、ハッテン場、私生活まで書かれて、精神的に追い込まれ、転居をし、ゲイとしての活動が怖くて出来なくなりました。(男性、30代、同性間)」など、非常に悪質な被害を受けている例もあった。

【主な回答】

・「同じゲイ同士の出会い系 SNS の中でも HIV キャリアは肩身が狭い。HIV (-) というプロフィールの人には、まちがってもコンタクトはしない。病気(HIV)の人は SNS に参加をするな！くらいのことはある。」(男性、40代、同性間)
・「ネット(SNS)に書きこまれる。」(男性、20代、その他)

・「インターネットや SNS での心ない言動や無意識な差別」(男性、30代、同性間)

(7)「親族、パートナー、友人、知人から受けた差別」7票

親族やパートナー、友人、知人などの身近な人物から受けた差別についても、複数の回答が見受けられた。「親戚から一切連絡が途絶えた」(男性、60代、同性間)、「HIV陽性である事を理由に、元パートナーから別れをきり出された。」(男性、30代、同性間)など、HIVに罹患していることを理由に、周囲の人と疎遠になったり、距離を置かれたりする例も報告された。

【主な回答】

・「(略)現在 HIV のことを SNS 等で友人からもれて多くの友人を失った。(男性、30代、同性間)」
・「知り合った人に HIV であることを告白したら、連絡を拒否された。」(男性、30代、同性間)
・「会社の社会保険状況を知る人から距離を置かれた。その人達の家族からも。この件は最近ではなく、10年前の当時。これを機会に全ての会社の人達と縁を切った。」(男性、60代、同性間)
・「妻の義兄の態度が病気発生後縁遠くなり、道で会っても挨拶をされずになって(10年ほど前に妻の実姉には病気のことを伝えてから)近所に住んでいるが会わない様に双方共行っている。姉の家には呼ばれた事もなく行かない(昔は行き来があった)その為近所の人々は病気の事を知らないようにしている。(男性、70代、同性間)」

(8)「パートナー探しにおける不利や差別」5票

「パートナー探しで、陽性者とわかると拒否される(男性、40代、同性間)」、「パートナー(や配偶者)を探す上で、かなりの不利を感じる。非感染者とは絶望的な差を感じる。(男性、40代、血液凝固因子製剤)」など、パートナーを探す際の困難についても複数の回答が見受けられた。

【主な回答】

- ・「出会い系アプリでの『HIV 陰性です』の紹介文を見る度に、陽性者である自分は恋愛をしても良いのだろうか？また、僕はこのまま一生恋人ができないのだろうか？好きな人がもしできて、HIV 陽性である事を伝えたら僕は拒絶されるのだろうか？と日々思っている」(男性、40代、同性間)
- ・「結婚相談所(ゲイ男性向け)の入会を拒否された」(男性、40代、同性間)
- ・「好きな人に告白したりするタイミング」(男性、20代、同性間)

(9)「保険契約に関する差別」4票

生命保険の契約や見直しなど加入制限についても複数の回答があった。

【主な回答】

- ・「生命保険のけいやくでことわられた事。(男性、40代、同性間)」
- ・「保険で HIV Ptさんは、相手にしてもらえない。してもらえるところもある様ですが。秘密がもれるくらいなら保険に入らなくていい。(男性、年代の記載なし、同性間)」
- ・「銀行、生命保険会社 / 住宅ローン審査や加入、見直し時加入できる保険種類の制限が多かったり年金型でも払い戻し率が低かったりプランに限られる。」(男性、40代、異性間・同性間)
- ・「病気のことで保険の見直しをせざるを得なかった。」(男性、40代、同性間)

(10)「自身の HIV 陽性を周囲にバラされた経験」6票

自身が HIV に感染していることを周囲にバラされたことで不快な思いをした経験や、職場を退職するなど環境を変えざるを得なかったという回答も見られた。また、「医師に HIV に感染していることを職場にバラされた(男性、40代、同性間)」といった回答もみられた。

【主な回答】

- ・「職場内で障がい者雇用扱いにされそうになったことが一度あった。個人情報はどこでもれたのかは不明だがすごく不安に感じた。」(女性、50代、異性間)
- ・「HIV をカミングアウトした友人が勝手に友人に暴露し嫌な思いをしたことがある。これ以降 HIV のことは基本的には友人に話さないことにしている。」(男性、30代、同性間)
- ・「表面的に差別を感じたことは殆どありませんが、以前の職場で同僚に HIV であることを伝えたらその方が抱えきれずに上司に伝えてしまい、噂が広がる前に退職した方が良いと迫られたことがありました。その会社はすぐに退職しました。(男性、40代、同性間)」

(11)「偏見や差別的な言動を見聞きした経験」25票

実際に自身が直接差別を受けたわけではないものの、HIV に対する偏見や感染者が差別されている言動を見聞きした経験があるという回答も多くみられた。、「SNS 上で HIV 陽性者になると人生が台無しになる」という発言がよく見受けられる。(男性、20代、同性間)」など、周囲の人や SNS 上での差別的な発言で不快な思いをしているといった内容の回答も複数見られた。これら発言は人間関係や社会活動を制限することにつながる事が懸念される。

【主な回答】

- ・「自分自身は同居している母以外には病気のことは一切周囲に知らせていないため、直接不利な状態や差別にあったことはありません。ただ、仲間の会話のなかで特に HIV は好奇や笑いの話題になっていることを聞いたことが何回かあります。」(女性、50代、異性間)
- ・「自分が HIV とは言っていないが『HIV はくしゃみでうつる』とか『同じ部屋にいてもうつる！』と断言している人がいて、ああ世間はまだまだこの病気に対する知識が低いなあと思った。くやしかったけど『うんうん、そうなんだー』と聞いているだけにした。」(女性、40代、異性間)
- ・「(略)職場の同僚が HIV をちゃかしている」(男性、

60代、同性間)

- ・「上司から HIV 陽性者への差別的な発言を聞いた。じょうだんで誰かに言っていた。自分自身に向けてでわない。(男性、40代、同性間)」
- ・「友達が HIV をネタにして話していたので少し不快に思った。」(男性、20代、同性間)
- ・「ジョークで『お前 HIV じゃない?』と、いわれた時」(男性、30代、同性間)

(12) 「自身の HIV 陽性が周囲に知られることへの不安や抵抗を感じた経験」7票

直接的な差別を受けたわけではないが、自身が HIV 陽性であることが周囲に知られることに対して不安や恐怖を感じた経験があるという回答について記す。HIV 陽性であることを理由に周囲から差別されることに恐怖や不安を感じ、正直に伝えたり、制度を利用したりすることができないという記述が複数見受けられた。

【主な回答】

- ・「拠点病院で紹介されて行く診療は担当医より連絡が行っているのですがそのように感じる事ははいのですが、突然の何らかの痛みで通院する場合自ら HIV 陽性者と名のる勇氣はないです。迷ってます。相手方の反応が”こわい”と感じます。(男性、50代、同性間)」
- ・「映画やテーマパークで障害者割引を使う時障害者手帳を出して見せることにていこうがある(男性、20代、同性間)」
- ・「住宅ローンの契約時に団信等の保険加入の祭に HIV 感染者であることで審査の障害になることが考えられ正直に告知できない」(男性、50代、同性間)
- ・「治療で通院している病院で、通常の間診票を書くか書かないかで、HIV 治療で来院しているのかそうでないのかが分かってしまう。周囲に公表していないので、知人がいないかどうか確認したり、知り合いではない HIV 治療で通院している人にもゲイコミュニティでバラされたりしないようにマスク等で顔を隠したり、不安がある。」(男性、30代、同性間)

(13) 「その他」

その他の回答としては、「実兄から『このエイズ野郎!!』とののしられたことがある。(男性、40代、同性間)」など、HIV 陽性を理由に周囲から暴言を吐かれたり脅迫を受けたりしたという経験に関する回答、住宅ローンを組むことができなかったという回答、ビザの問題に関する回答などがあった。外国籍の人への対応は本件以外にも多様な課題が想定される。

【主な回答】

- ・「伝えた友人からの強迫」(男性、40代、同性間)
- ・「障害者手帳をもっている事で住宅ローンがくめなかった。」(男性、40代、異性間)
- ・「ローンを組もうとしたが、『HIV 治療中』という判断になるため、組めませんでした。」(男性、40代、同性間)
- ・「外国人だから病気のためにビザの問題とかあるか心配があります。」(男性、40代、同性間)

自由回答【Q11-6 高齢期の生活】

「Q11-6 高齢期の生活について、具体的に備えていることがあれば教えてください」という自由回答の設問について回答内容を分類した。

回収票 1543 票のうち記載があった 613 票 (39.7%) のうち、「特にない」、「なし」等の記載 134 票を除外して、具体的な記述のあった 479 票を分類した。「特にない」「なし」といった記載は、一般に自由回答の場合よくあるが、この質問の場合には、高齢期の生活に具体的に備えていることは「とくにない」という意味が含まれている可能性があることに留意したい。

回答内容について以下の 11 項目に分類した。複数の項目に分類した回答も含めているため合計数は回答数と一致しない。

- (1) 「お金(貯金・年金・投資など)に関すること」
- (2) 「家に関すること」
- (3) 「介護施設、コミュニティに関すること」
- (4) 「仕事に関すること」
- (5) 「結婚、パートナー、家族に関すること」
- (6) 「保険に関すること」
- (7) 「人間関係に関すること」
- (8) 「健康に関すること」
- (9) 「死に関すること」
- (10) 「余裕がない、考えられない」
- (11) 「その他」

(1) 「お金(貯金・年金・投資など)に関すること」 202 票

この項目に関するものが最も数が多かった。「なるべく無駄使いせず、毎月定額を投資信託に投入して少しでも貯えが残るように心掛けています。(男性、40 代、同性間)」、「積立投資による貯蓄。(略)(男性、30 代、同性間)」、「といった回答や、「2000 万円目指してお金を貯めている(男性、30 代、同性間)」、「将来(老後)に向けた貯蓄、投資(男性、50 代、同性間)」など、老後や将来を見据えて貯蓄をしているという回答が複数見受けられた。

【主な回答】

- ・「年金で足りない部分をカバーするために貯金をしている」(男性、40 代、同性間)
- ・「年間 100 万貯める。そのために土曜だけのアルバイトを始めました。」(男性、40 代、同性間)
- ・「貯金をして年金もきちんと払い、老後についても主人とたまに話してイメージしてます。」(男性、30 代、感染経路に関する記載なし)
- ・「定年後の生活のための貯金」(男性、40 代、同性間)
- ・「株式や IDECO でお金をためている。」(男性、40 代、同性間)
- ・「とても充分とは言えませんが、少し貯金をしています。」(男性、40 代、同性間)
- ・「個人年金や ideco などの『お金』」(男性、40 代、同性間)
- ・「出来るだけ、お金を貯える。」(男性、60 代、同性間)

(2) 「家に関すること」 43 票

次に多かった回答が家や住まいに関することである。「マンションを購入した。(男性、40 代、同性間)」、「自宅を購入した。(中略)(女性、30 代、異性間)」など、家を購入したという回答が複数見受けられた。「田舎の大きな家から都市のワンルームマンションに引越しました。(男性、40 代、同性間)」、「実家に帰ることを考えている。(男性、30 代、同性間)」など、転居

を済ませたり、将来的な転居を考えたりしているという回答もあった。「病院の近所に住みたいです。(男性、50代、同性間)」など、HIV治療のことを考慮した回答もあった。

【主な回答】

- ・「住宅ローンがくめないで、いずれ一括で安い中古家を買いたいと思っている。」(男性、50代、同性間)
- ・「家はあるので大丈夫かと」(男性、40代、同性間)
- ・「両親は死去したが、実家はそのまま残してあるので、住まいだけは確保した」(男性、50代、同性間)
- ・「もち家を貯金のかわりとしている」(男性、50代、同性間)
- ・「マンションの購入」(男性、30代、同性間)
- ・「住居(中古マンションを購入)」(男性、40代、同性間)

(3) 「介護施設、コミュニティに関すること」12票

「同性愛(ゲイ)のコミュニティ、陽性者のコミュニティでグループホームを考えています。(男性、30代、同性間)」という、コミュニティへの帰属に関する記述もみられた。HIV陽性者のコミュニティは日本にも複数存在している。たとえば、ぷれいす東京やJaNP+、各地のHIV陽性者の交流会、HIV陽性者むけSNSなどは、HIV陽性者がありのままに生きられる環境(コミュニティ)を創り出すことを目的に活動している。LGBTのコミュニティについても、twitterやアプリなど、SNS上のインフォーマルなつながりをはじめ、コミュニティセンターや学生サークルなど、様々な交流の場が広がっている。今後の高齢化などを背景に、地域生活における需要は拡大していくと思われる。

一方で、「(略)金銭的な備えはありますが、今のパートナーに介護させるといふには抵抗があり、施設とかでお世話になりたいと思っています。(男性、60代、同性間)」などのように、パートナーへの配慮から施設の利用を考えている記述もみられた。

【主な回答】

- ・「健康寿命が続くかぎりは単身で生きたいが、介護が必要な状態になれば有料ホームを利用したいと思っている。その時のホーム入居に関してのHIV理解度と他の病気でも薬との服用や関連性に適正な指示、アドバイスを受ける態勢が取れるかを思案中なり。」(男性、80代、同性間)
- ・「現在私は**才です。介護が必要を自覚したら現在の住居を売り(1000万位)多少の貯金を足し老人ホームに入居したいと考えておりますが、今はどこも満室しかも高価と考えています。それが一番の不安です。妻とは離婚しており、息子も*人いますが未婚。頼りにしておりません。」(男性、70代、同性間)(*は編者により削除)
- ・「HIV感染者専用の介護施設又は医療機関に入所して、老後生活を気がねなく送りたい!」(男性、50代、同性間)
- ・「薬物依存症者なので、最期は、生活保護を受給して、DARC等の施設利用を考えています。そしたら孤独死はしないので。(入寮経験済)」(男性、40代、同性間)
- ・「HIV陽性者が入居できるサ高住やグループホームを探している。」(男性、40代、同性間)

(4) 「仕事に関すること」10票

「自分の体が元気なかぎり仕事をしたい(男性、60代、同性間)」、「年金プラス、無理なく働けそうな70才までは定年以後も仕事をするつもり。(略)(男性、40代、同性間)」、「現在都内にてブティック(婦人服製造、販売)を営業中ですが、今年の12月に閉店に故郷へ転居し姉と2人で新たな仕事を計画中(男性、60代、同性間)」などという回答があった。体力が続く限り仕事を続けようとする背景には、年金だけでは厳しいという想いがあるのかもしれないが、「新たな仕事を計画中」という記述や、仕事を続けられるだけの活力と体力に関する記述など、比較的前向きな回答が多くみられた。

【主な回答】

- ・「人に頼れないので何かしらの仕事ができる活力と体力を今のうちから養っていかうと強く思ってい

る。」(男性、40代、同性間)

- ・「働かなくなった時は田舎に帰って生活する。現在**才でアパレルメーカーの技術職(パターンメイキング)をしているが来季もオファーがあるので働けるかぎり働く。」(男性、70代、同性間)
- ・「定年後は経験を活かした職業に再就職を決めています。その後の段階で収入が14万程度となる為、パートナーと同居する予定。」(男性、40代、同性間)

(5) 「結婚、パートナー、家族に関すること」8票

「大切なパートナーが居るため、将来なにかあれば、助けてもらえるとおもっています。また、自分が元気でパートナーがなにかあれば助けたいとおもっています。今**才であり、あまり将来のことを想像できないのが現実です(男性、30代)」、「結婚し実子をもうけたこと(略)(男性、40代、異性間)」など、パートナーや配偶者、子どもがいることで、将来に対するある種の安心感を持っているような人もいれば、「家ぞくがもてないのでどのように生きていけばよいか?(男性、40代、同性間)」といったように、家族を持つことができないことへの不安を吐露する回答も見受けられた。

【主な回答】

- ・「(略)ゲイなので、パートナーといつ結婚できるか心配。」(男性、30代、同性間)
- ・「人間関係にあってはパートナーに順ずる人がいない為そなえはない。」(男性、40代、異性間)

(6) 「保険に関すること」28票

生命保険、医療保険、年金保険に加入しているという記述は複数見受けられた。「保険に入り、少し貯蓄しているが病状によっては不足するだろう。(男性、40代、同性間)」というように、保険や貯蓄などで経済的な備えをしつつも不安を述べる回答も見受けられた。

【主な回答】

- ・「医療保険・年金保険に加入している」(男性、30代、同性間)
- ・「養老保険3種加入」(男性、30代、同性間)
- ・「生命保険会社の年金積立(月16,000円×15年)をかけている」(男性、40代、同性間)
- ・「感染前に入った医療保険を解約しないようにしています。(男性、40代、同性間)」
- ・「健康な時に入っていた生命保険と、株などの資産運用」(男性、40代、同性間)
- ・「保険への加入」(男性、40代、同性間)
- ・「年金、介護保険の加入(公的以外)」(男性、40代、同性間)

(7) 「人間関係に関すること」15票

「友人達と『お互い支えあっていこうよ』と伝えてある(男性、40代、同性間)」、「今シングルなので、年とったら特に友人の存在は大切だと思っています。なので、友人何人かとはなんでも話せるより深い関係を築くよう努めています。(男性、40代、同性間)」、「友人と助け合っていただけたらうれしい(男性、40代、同性間の性的接触)」など、とくに友人との関係構築に関する前向きな回答が複数見受けられた。

【主な回答】

- ・「友人と助け合っていただけたらうれしい(男性、40代、同性間)」
- ・「(略)最近、おとなりの家の人になにかあった時のために実家の連絡先とか教えた方が良いのかな?とも思ってます。(住み始めて10年位になるので変な人ではないと思うので、話してる分には…)」(男性、30代、同性間)
- ・「(略)近所のおつきあい」(男性、60代、同性間)
- ・「前職場にいた介護サービス者との人間関係」(男性、50代、同性間)
- ・「(略)人間関係の構築」(男性、30代、同性間)
- ・「(略)友人を幅広く作る。」(男性、40代、同性間)

(8) 「健康に関すること」 9 票

「バランスの良い食事・適度な運動(外出など)・歯磨き・規則的な生活リズム・新しいことに挑戦する(変化)・身綺麗にする。整理整頓・毎日、笑う時間を持つ。(男性、50代、感染経路に関する記載なし)」など、日々のライフスタイルでの健康増進を心がけているという回答もみられた。

【主な回答】

- ・「健康増進」(男性、50代、同性間の性的接触)
- ・「(略)体力作り」(男性、30代、同性間)
- ・「健康のための趣味(ランニング)・キャリア・スキル向上」(男性、30代、同性間)
- ・「体力を付ける(お金に関して心配ではあるが、収入がそれほど多くない為、備えられない)」(男性、40代、同性間の性的接触)

(9) 「死に関すること」 25 票

高齢期の生活について尋ねた質問であるが、「介護が必要となる前に命をたつことを考えてます。安楽死の制度が日本でも成立してくれたらと思っています。(男性、50代、同性間)」、「早く死んでしまいたい。だれにも知られずひっそりと。(男性、20代、同性間)」など、「死」についての回答が複数見受けられた。20代や30代の比較的若い世代でも「死ぬこと」について考えている人がいる上に、「死んだ後の遺体の処理は誰がするのか。いくら費用が必要なのか、不安で、ずっと情報を集めている。(男性、30代、同性間)」といった、自分が死んだあとの費用や対応について心配している記述もあった。死に対する不安感を少しでもやわらげられる支援が必要である。

【主な回答】

- ・「1人での生活に限界を感じたら1人で死ぬ」(男性、30代、同性間)
- ・「もう60を過ぎており、いつまで生きられるのか、死ぬ時はどのような死に方をするのかと言う不安でいっぱい。」(男性、60代、同性間)
- ・「体の自由がきくうちに命を絶つ」(男性、同性間)
- ・「もし、介護が必要になったら死を選択したいと思っ

ています。」(男性、50代、同性間)

・「まず、年金だけでは生活できず、預金もなく住まいもなく不安しかない。働けなくなったら死ぬしかないと思っている。HIVの薬はとても効果なので、それだけでも自分が生きている事に後ろめたさを感じている。認知症になり、薬が自分で飲めなくなった時を思うと、どんな死に方をするのだろうと不安になる。」(男性、40代、同性間)

・「今日1日の生活で目一杯。援助してくれる友人への義理で生きているが、長引けばきょうだい(编者変更)にも迷惑だから早く楽に死にたい。」(女性、40代、異性間)

(10) 「余裕がない、考えられない」 7 票

「今は、10年先の事を考えられない。(男性、60代、同性間)」、「備える余裕はありません。(男性、40代、同性間)」、「心身共に疲れており、考える余裕がない。将来像が見えない。(男性、40代、異性間)」など、精神的または肉体的に高齢期の生活に備える余裕がない、という回答が複数見受けられた。

【主な回答】

- ・「何も考えられない。今は明日生きてない方が良いと思いつながらねている。今の状況でもう一度働き将来に対する備えを持つことなど不可能。その日暮らしで寿命まで生きていくしかない」(男性、50代、同性間)
- ・「日々の生活に手いっぱい、先のことなど考える余裕などなし。またあまり先のことを考えても仕方ないと思ってしまう。」(男性、50代、同性間)
- ・「お金を備えたいがその余裕がない」(男性、40代、同性間)
- ・「将来のことまで考えられない。」(男性、30代、同性間)

(11) 「その他」 56 票

その他の回答としては、「独りになるのが怖い。(男性、30代、同性間)」、「金銭的な不安(女性、50代、異性間)」、「自律支援が無くならないか不安。感染者もまじめにやっている人もいるのに全て無防備な人と同じに見られ一括して制度がなくなるのではないか(男性、50代、同性間)」など、高齢期の生活に向けて特定のものを備えているわけではないものの、生計や制度の廃止などの不安を吐露したものが複数見受けられた。

また、「(略)いつ死ぬか分からないので、しゅみの旅行などをまんきつしています。(男性、30代、同性間)」、「(略)趣味として園芸をはじめた。(男性、40代、同性間)」など生活を充実させることに関する回答も見られた。

【主な回答】

- 「すべての項目(住まい、お金、人間関係、治療)で少なからず不安はあります。あまり考えない事にしていきます。」(男性、70代、同性間)
- 「独しん者なので、定年後に寂しさや孤独感をどれだけ感じるのだろうか」(男性、40代、同性間)
- 「収入が少なく、借金もあることから今後の生活に不安を覚えています。金銭的に今日明日の生活も不安に感じられることがあります。」(男性、30代、同性間)
- 「財産の整理とか荷物の廃業等」(男性、60代、同性間)
- 「特にありませんが、あまり物を増やさないように気を付けている。」(男性、50代、同性間)
- 「まだ、わかりません。」(男性、30代、同性間)
- 「現在 35 歳ですが、このアンケートを読むまで自分の介護なんて全く考えていませんでした。目からウロコです。ありがとうございました。」(男性、30代、同性間)
- 「お年より(母や、病院にいるおとしより)を見て日々学んでいる。(生き方や、考え方、問題点など)」(男性、同性間)

自由回答【Q13-3「薬物やドラッグについて」】

「Q13-3 ドラッグや薬物について、あなたご自身や周囲のご経験から思うこと、参考になることがあれば教えて下さい」という自由回答の設問について内容を分類した。回答内容の傾向が異なるため、薬物やドラッグの使用経験の有無別(Q13-1)に内容を分類した。回収票 1543 票のうち、425 票(27.5%)に記載があった。「薬物を使ったことがある」と回答した 706 名のうち 234 名(33.1%) (「とくにない」など 6 票を含む)、「薬物を使ったことがない」と回答した 826 名のうち 190 名(23.0%) (「とくにない」など 36 票を含む)の記載があり、使用経験のある人からの回答率が高かった。

本項目は複数の分類項目を含む回答が多いため、各分類項目の回答数は記載しなかったが、傾向としては、薬物使用経験が「ある」とした人の記述には、ラッシュ等の法規制による覚せい剤への移行の増加を指摘した記述や、緩和を求める意見が多かった。また薬物使用の背景についての記載や離脱の難しさの指摘もみられた。薬物使用経験が「ない」とした人の記述には、使用してはいけないという意見が多かったが、単に否定する意見だけでなく、身近な周囲の人や環境での経験を見聞きしているからこそ反対するとした意見や、使用に至る背景への共感、支援の必要性を述べたものがみられた点が特徴的であった。

1)薬物を使用したことが「ある」とした人の自由回答

「薬物を使ったことがある」と回答した 706 票のうち 234 票 (「とくにない」など 6 票を含む)

(1)使用についての後悔

(2)ラッシュや大麻の許容

(3)法規制の問題点—覚せい剤等への移行

(4)薬物使用に至る背景

(5)使用をやめることの難しさ

(6)治療や更正の機会を

(7)教育や情報の必要性

(1)使用についての後悔

- セックスのためと現実とうひの為。何もいい事なかった。(40代, 男性, 同性間)
- 興味本位で少しだけ思ってもぜったいに使うべきではない。後悔している。(30代, 男性, 同性間)
- 費したお金を貯蓄等に回せていたら、どれほどの生活にゆとりができていたのだろう…できることなら、やらないにこしたことはないと思う。ただ、この快感は他では味わえないと思う… (20代, 男性, その他)

(2)ラッシュや大麻の許容

- 日本では使っていない。セックスのときにラッシュは使えるようにして欲しい。もう少し性的な用途に対しては寛容にして欲しい。(40代, 男性, 同性間)
- ラッシュは米国やいくつかのアジアでは OK で有る。日本は厳しすぎるし、セックスが楽しめないと、生活がづらいと思う事がある。解禁して欲しい。(40代, 男性, 同性間)
- 回りに、めいわくをかけなければ、やりたい。回数、使用量が多くなければいいと思う。(40代, 男性, 同性間)
- RUSH などいぞん性の薄いといわれるアップー系のを禁止して、タバコやアルコールはセーフな日本のせいどが気にいらぬ。用法、用途をまちがわなければ娯楽として楽しんでもいいのではと考える。きせいをかけることに反発やデモがおきないのは日本だからだと思う(20代, 男性, 同性間)

(3)法規制の問題点—覚せい剤等への移行

- RUSH が違法となり入手しづらくなってから、覚醒剤の使用者が増えた様に思う。RUSH よりも覚醒剤の方が入手しやすいんだと思います。(40代, 男性, 同性間)
- なにもかも違法とし、規制する事から覚せい剤へ移行しているのが今の状況だと思う。(40代, 男性, 同性間)

- RUSH が禁止になってから危険ドラッグが増えた気がする。欧米のように RUSH はそのまま販売、禁止物としての取扱いを止めるべきでないか。(30代, 男性, 同性間)
- 何でも一律に NG としてしまうと、かえって危険だと思う。(40代, 男性, 同性間)
- 5meO やラッシュを規制した事で覚せい剤に手を出す人が圧倒的に増えた。周囲でも皆そう言っている。(40代, 男性, 同性間)

(4)薬物使用に至る背景

- 使用したことで孤独となり、周りに頼れる人がいなくなり、より使用するようになった。今はほぼ使用していない。(40代, 男性, 同性間)
- 今は PrEP があり、予防できるようになったので、HIV キャリアと言わなくて済むようにはなったが、それは SEX までの話。パートナーを求めるのであれば、同じキャリアか理解者に限られてしまい、感染者の悪しきイメージは変わらない。薬物で逮捕され、身元も不安定となれば、パートナーどころか友人を探すのも難しい。結果、ひとりで悩み、苦しんでいる者が薬物でのうさばらしと孤独を埋めているように思う。(40代, 男性, 同性間)
- 自分のとっての薬物も HIV も、自己のセクシャリティからくる自己否定の結果として、自分から求めていったものだったように感じています。その点では個人の健康や公衆衛生というより、本人の自尊心の問題でもあると思います(30代, 男性, 同性間)
- 使うことが身体によくないこと、法律に触れることはもちろん知っていて、使わないにこしたことがないと思っている。でも HIV になってから、決まったパートナーができず淋しい想いをしているので、それに仕事などのストレスが重なると、使いたくなることは、これからもあるかもしれない。でも、もう1年以上使っておらず、使わなければ使わないで平気な自分もいます。(40代, 男性, 同性間)

(5)使用をやめることの難しさ

- いけない事とは分かっているが、やめれない。(40代, 男性, 同性間)
- 友人ですら裏切りなど起こると思う。人を信用できなくなる。1回やったらやめるためにかなりの勇気がいる。(30代, 男性, 同性間)
- 周囲で逮捕されている人を知りながら、誘われて、ついやってしまうこともあると思う。犯罪である認識はほとんどないと思うが、捕まってみて初めて罪の重さを知ることになる。人生を台無しにする前に、そういったサイト等を興味本意で開くことをやめて、危険な所から離れるべき。(30代, 男性, 同性間)

(6)治療や更正の機会を

- 刑事罰よりも治りょうを目的としたサポート、更正を促す仕組みに変えてほしい。(30代, 男性, 同性間)
- 今は薬物はやってはいないが、いつ使用してしまうか不安！！完全に薬物をやらないと言い切れない自分が居る！！(40代, 男性, 同性間)
- 罰することにだけ Focus がいつている。道をふみはずしたとしても社会がその人達をもう少し寛容に受け入れられるようになるといいと思う。(30代, 男性, 同性間)

(7)教育や情報の必要性

- ドラッグと薬物がセックスドラッグ、セックス時の薬物としての世間の認識が少なすぎ。自分自身もそうだが、学生時からセックス時の使用の快樂におぼれる恐さとか、その先の事、知っていれば使わなかった。若い時、性への興味、快樂の興味も強いが、覚せい剤等のセックス時の使用が、おぼれていくものだともっと情報が世間に広まっていたら、薬物事件は少しは少なくなるかも。(40代, 男性, 同性間)
- 使用量やその後のケアなどの情報が不十分だと感じています。実際、TV やその他メディアで触れる情報はどれも嘘、もしくは誇張されています。入手ルートが信用ならなくなる程、品質が低下し、脳や臓器にダメージを与える場合が多いです。自分でコントロール

する為には適切な情報が必要だと感じています。(40代, 男性, 同性間)

2)薬物を使用したことが「ない」とした人の自由回答

「薬物を使ったことがない」と回答した826名のうち190票に記載があった(「とくにない」など36票を含む)。

- (1)使用してはいけないもの
- (2)使う気持ちがわからない
- (3)マリファナ等、一部許可してもよいのではないか
- (4)周囲の人の経験や環境から思うこと
- (5)離脱のための支援や予防教育など、環境整備を
- (6)自己責任
- (7) HIV 感染症や同性愛と薬物を関連させることの問題点

(1)使用してはいけないもの

- ・自分自身は直接見た事は無いが、ニュース等で見ておるときっと一度経験すると抜け出せない様な物だと思っている。煙草がやめられないのよりも我慢が出来ない物だとも思っている。(30代, 男性, 同性間)
- ・ドラッグは人格を変えるので怖いと思う。(60代, 男性, 同性間)

(2)使う気持ちがわからない

- ・あまり身近で使用している人がいなくて、どこか他人事です。(40代, 女性, 異性間)
- ・回りにドラッグを使っている人がいません。理解が難しいです。(50代, 男性, 同性間)
- ・身近な人を含めてまったく触れることはないの分らない。(60代, 男性, 同性間)
- ・世の中で合法で出回っている睡眠導入剤(ベンゾジアゼピン)ですら、常用後止めようとする相当の苦難を伴ったというのに、自らドラッグに手を染める人の気がしれない。一時の快樂の為に一生を棒に振る危

険性の高い物に依存する…悪夢以外の何者でもないだろうに。その認識もなく中毒・依存となった人には一刻も早く泥沼から抜け出せるよう祈るばかりである。(40代, 男性, 血液凝固因子製剤)

- ・自身にも周囲にも、経験が無いので、分からない。(50代, 男性, 血液凝固因子製剤)

(3)マリファナ等は一部許可してもよいのではないか

- ・世界の流れからマリファナは考える必要があるのでは。酒による暴力などを考えると、マリファナの方がずっと体調面も含め安全のはず。(50代, 男性, 血液凝固因子製剤)
- ・終末医療の一環としての使用は良いのでは。(60代, 男性, 血液凝固因子製剤)
- ・規制すればもっと強目のドラッグに進むから、ラッシュ程度は使用OKにすればいい! 覚せい剤も限定して使用できる場所とかあればいい。(50代, 男性, 同性間)
- ・社会的制裁が過ぎると思う。(50代, 男性, 同性間)
- ・全てをがっちり規制しすぎるのもどうかと思う。(40代, 男性, 同性間)

(4)周囲の人の経験や環境から思うこと

- ・感染リスクが非常に高いイメージがあります。薬物使用で自殺した友人にいたる為、非常に危険で悪いイメージ。(40代, 男性, 同性間)
- ・周りにめいわくをかけてしまう。使ったことのある友人から「死ぬまでに一回は経験した方がいいよ」と言われたとき、ぞっとしました。(30代, 男性, 同性間)
- ・気持ちよくなるみたいだが、入手ルートを知らない。しかし、昔ハッテン場で恐らくラッシュ?使っている人を見かけたこともあるしAVでも使用している人をよく見かける。(30代, 男性, 同性間)
- ・私のパートナーが、私と出会う前に経験し、服役したとの事で、危険なモノは危険との認識を早く深めておけば…との事でした。より啓発に努めるべきと思います。それと共に、ドラッグより危険なのが、友人の処法されてる抗うつ剤ではないか、と最近感じいま

す。(40代, 男性, 同性間)

- 親が覚せい剤で何度も逮捕されています。とても身近に存在しているものだ、ということを経験していった方が良く長年感じています。(30代, 男性, 同性間)
- 既に他界しているが、姉が咳止めの中毒だったので、その関係で家族間のコミュニケーションがうまくとれなくなってしまった。本人は、罪悪感を持っていなかった。薬物は人格をも破壊する力があるのだと感じました。(40代, 男性, その他)
- 田舎から東京に出てきて、東京では知人やそのまわりでドラッグ等に手を出している人が多数いてビックリしました。(30代, 男性, 同性間)

(5) 離脱のための支援や予防教育など、環境整備を

- 依存症全般に対する治療体制が整っていない。投薬による治療だけでは個人の問題は解決されず、自助グループやカウンセリングなどで根本的な問題に対応する仕組みが整ってほしい。(30代, 男性, 同性間)
- 使用者を犯罪者として取り締まるより、治療や社会的サポートで依存や常用から離脱できるような仕組みをもっと充実させるべき。(40代, 男性, 同性間)
- 学校教育にもっと取り入れるべき。小、中学校から。(50代, 男性, 同性間)

(6) 自己責任

- 使用することは本人の自由だと思いますが、周りの人たちに迷惑をかけてほしくないです。(30代, 男性, 同性間)
- 自由で良いと思う。するのも自由、しないのも自由。選択できる環境や情報が整っていれば良いし、環境が整っているのに間違った選択をした人はペナルティとか責任を公的においても。(40代, 男性, 同性間)
- 他人に迷惑をかけないなら、勝手に薬物に手を出してもいいと思う。しかし、結局迷惑をかける現実。最近、友人が警察に捕まった。(50代, 男性, 同性間)

(7) HIV 感染症や同性愛と薬物を関連させることの問題点

- HIV キャリア=ドラッグ利用者という概念を世間が持つことのないよう、引き続きドラッグについては厳しく取りしまってください。(30代, 男性, 同性間)
- 薬物と HIV 患者と同性愛が一まとめにされているような気がする。薬物はストレートの人、一見健康に見える人の方がしていることもあるがそちらには目が向けられていない。(40代, 男性, 同性間)
- HIV とドラッグを結びつけたアンケートは、人権的に問題。(50代, 男性, 同性間)
- ただでさえ HIV で健康状態が不安定なのに、快楽を求めて危険で反社会的なドラッグに手を出すべきではない。HIV やゲイへのさらなる偏見につながる。(60代, 男性, 同性間)

自由回答【Q15-12 他の HIV 陽性者等に伝えたいこと】

Q 15-12 「他の HIV 陽性者の人たちや一般の人たちに伝えたいことがあれば、ご自由にお書きください」という自由回答の設問について分類した。

回収票 1543 票のうち記載あり 462 票(29.9%)。 (「特になし」「何もない」「思いつかない」等の記載 50 名を含む)。回答の性質から下記の分類を行なった。なお、一つの回答が複数に分類される場合があり、総数は回答数の総計とは異なる。

1. 陽性者へのメッセージ(69 名)
2. 治療、服薬、HIV に関すること(95 名)
3. 偏見、差別、知識に関すること(68 名)
4. 予防や検査に関すること(48 名)
5. 人生や生活に関すること(41 名)
6. これまでを振り返って感じたこと(37 名)
7. 健康に関すること(19 名)
8. その他(56 名)

1. 陽性者へのメッセージ

LGBT に寛容な企業は HIV について寛容だと思います。職場でも信頼できる人が HIV を知ってもらい LGBT 当事者としてあるがままに受け入れられる場もあると思います。(30 代、男性、同性間)

感染が発覚して不安になっている方、安心してください。今の時代、HIV なんてただの病気のひとつ。死を考える必要なんてない。そのためには治療が必要です。一緒に生きましょう。(40 代、男性、同性間)

正しく治療することで、以前同様の生活に戻れることが多くあります。そんな方が多くいる現代ですから、落ち込まず前に進みましょう。(40 代、男性、同性間)

明日は我が身、人事じゃなくて、もらわない事広げない事、もし感染しても、移した方じゃなくてよかったって思える様に、人にした事は必ず自分に返る。何でもマジメにやるこっちゃですね。(30 代、男性、同性間)

やけになったりするのは止めた方がいい。自分はポジの恋人ができて幸せなので。(40 代、男性、同性間)

HIV は人生を諦めるような特別な病気ではない。完治しないが治療はある。感染力も強くない。HIV を持っても体調をくずさないように健康に気をつけて生きていける病気になった。すべての人が自分の持病を公開していないし死を意識する病気を抱えて生きている人もいますので HIV だけが特別な病気ではないと伝えたい。ただ感染はしないで欲しいし予防の努力はして欲しいと願っています。まずは自分の身体を大切にすることが大切と思う。(50 代、男性、血液凝固因子製剤)

同性愛者も異性愛者と全く同じように性生活が楽しめるような社会であるべきだということを自信を持って生きてゆくべきだ。(60 代、男性、同性間)

感染しないにこした事はないですが、なったものは

なったものとして過去を見ずに前向きに、「ケ・セラ・セラ」の精神で行きましょう？♡(40代、男性、同性間)

U=Uのアピール等、ちゃんと服薬すれば今までと変わらず、少し工夫すると生活できるし、ハッテンなども少し配慮すればリスクはほとんどないと思います。白黒つけるのがこわいと思いますが、いつまでもグレーだと、自分の思いと違うこと(感染拡大等)につながるので、無料の検査を進んで受けて、自信をもって人生をたのしんでほしいと思います。(50代、男性、同性間)

失ったものがあれば、得たものもあるはずです。人生をポジティブにとらえて明るく生きていってほしい。(50代、男性、注射針の共用)

節度の中での人生を送って下さい。(70代、男性、同性間)

明るく生きましょう。暗く考えていても何もいいことはない。(40代、女性、異性間)

HIVになっても今までと何も変わりません。今までと変わらない楽しい毎日をすごして下さい！！(30代、男性、同性間)

すべての人に性を基準にではなく、愛を基準に生きよと言いたい。(70代、男性、同性間)

感染した当時にくらべて精神的な負担がまったくなくなったのは医療の発展のおかげ。特段、気にする必要なし。(40代、男性、同性間)

企業はHIV感染者をもっともっと採用して下さい。本当にお願ひします。あと、若いHIVに感染してる人たち、ご自分の人生をもっと大切に力強く生きて行っていただきたい。(60代、男性、同性間)

独りじゃないですよ。泣いていい、頼っていいんです。(40代、男性、同性間)

情報は常に新しいものが出てきますが、すべてが正し

いわけではありません。また、意見もこれが正解などありえません。見極める力をもっと付けていてもらいたい。(40代、男性、同性間)

今現実社会で陽性者として会社で働けてとても幸せです。来年10年目を迎えます！！かくさず、自分の道を進んでください！！ありがとうございます！！(60代、男性、同性間)

(他のHIV陽性者の人たち)幸せになろう！(40代、女性、異性間)

この病気は不幸な病気です。根絶は無理だと思いますが、直らないのなら出来るだけ冷静に流れに身をまかせ、担当医師に真正面か向きあって治療し続けて下さい。将来の不安はあります。でも今の医学の力で通常生活が続けられるありがたい状況です。絶望的にならず一日一日を大切に生き続け、小さな幸せを多く持つ事だと思います。(70代、男性、同性間)

一般の人たちの知識が20年前で止まっている(死の病気など)けど今は感染しても普通に生きていけるから心配しないで！(40代、男性、同性間)

お互いに愛し合ひましょう！(30代、男性、同性間)

HIVがわかってから、病院に通うまで、2年程かかってしまったが、今は薬も毎日飲んでちりょうしています。前向きになれてよかったです。かかってしまったものは仕方ない。HIVの医療は日進月歩です。怖がらずちりょうして下さい。(20代、男性、同性間)

なってしまったのは自身の責任だが、なっていない人間がそれをあざけり笑う様なマイノリティーやそうでない友人、知人、その他が存在するのはたしかだが、無理して関係を維持しなくても良いと思うし、するな！と言いたい。ずっと先でも、その人たちは無理解(又は、理解したふりをする)であると考えられるから。楽になれとはいわないが、楽な方へ行っても良いと思う。(40代、男性、同性間)

HIVは人生のごく一部でしかないし、他にも生命に関

わる病気はたくさんあるし、お金や人間関係など、たいへんなことはたくさんある。なので、HIV に過剰にこだわるのはやめて、「単なる持病」と思って生活していきましょう。(40代、男性、同性間)

HIV 陽性者の人たちへ…周りの人達と同じく生活して下さい。血液、精液の対処には十分注意さえすれば何も心配はいりません。「HIV」を理由にして現実逃避だけはやめて下さい。「HIV」は自分自身の様々な顔の一部でしかありません。「HIV」でも結婚も出きます。子供もつくることができます。だから、「命」を大切にして下さい。一般の人たちへ…この研究をされている先生方、自分の友人・知人が HIV だったら縁を切りますか？あなたのとなりの人がもし HIV だったとしたら、つき合いをやめますか？いっしょに鍋をつつくことが出来ますか？そして一緒に生きていこうと思えますか？(50代、男性、同性間)

多くの先輩患者や医療関係者の努力の結果として、現在の HIV 治療があります。生きていることを大切に！(50代、男性、同性間)

HIV 陽性者であっても周りに告知する必要は無いし、体力のあるうちは制約をしなくても良いと思います。一般の人たちもこの先事故やけがで身体障害者になったり、病気でも身体が不自由になったりする可能性があるので、弱者の立場に寄りそような考え方で生活して下さい。(30代、男性、同性間)

HIV やエイズの当事者と成ったはじめ頃やしばらくは絶望や、自己嫌悪で苦しいと思います。人それぞれに人生の環境は違いますが、暫く生き長らえてみてやっと思つかる安堵、安心、自己受容も有るかもしれません。現代の医学と福祉に感謝を忘れず、自分を愛せる様に大いなる努力を心身に施しながら、己が人生の意味と意義を見つけて欲しいと思います。俺はその気持ちに至る迄に 10 年間を要しましたが、やはり今の自分を好きになれるから、その様な余裕が生まれてきたのだと実感します。気が済む迄頑張ってみよう！！(40代、男性、同性間)

辛いことはこれからもたくさんあると思う。誰かに思

いをぶつきたい、話したいっていう人は、ぷれいす東京で検索してください！私はここで一緒に病気に寄り添う・戦う仲間が見つかりました！！だからといって幸福度が上がることはないけど、一人じゃないと思うことができました。もし、この文が誰かの目にとまって読んでくれているなら、あなたも僕の仲間であり戦友です！一人じゃない！一緒に乗り越えましょう！きっと明るい未来がまっているから！！頑張ろう僕と一緒に！！(20代、男性、同性間)

安易に陽性者である事を伝えるべきではない。偏見はなくならない。身体の痛みより心の痛みで悩まされます。いつも自殺を考えています。(ゆうきがないのでできませんけど)。(50代、男性、同性間)

可能な限り自由に。自らを過度に卑下するなかれ。(40代、男性、血液凝固因子製剤)

今現在は HIV は死ぬ病気ではないですが、一般の人間からすると危険な病気というイメージです。誰にも言えず、心が疲れていきます。でも治療をしっかり行えば、本当に普通に生活できます。今で言うインフルエンザのようなイメージに HIV もなってくれたら、心が荒む事なし治療して行けるのでは無いでしょうか。陽性者の皆様、がんばりましょう！！私もがんばります！！(30代、男性、同性間)

私はエイズを発症し障害者手帳 1 級を保持していますが服薬により仕事や日常生活に全く支障なく暮らせており特に陽性告知をされて落ち込んでいるような方々に知ってもらいたい。(50代、男性、異性間)

陽性を告られた時は、仕事も私生活もまったく無気力になり、病院の方たちへとても迷惑をかけました。”死ぬんだ”とずっと思っていました、一番自分の好きな事を思い出して、そこから自分のやりたい事や大切なものを改めて感じ、前向きさを取り戻せました。今はすべてにおいて命をかける勢いで仕事も私生活もおくっています。やりがいを見つけられるよう、陽性者の皆さんにはオススメします。(30代、男性、同性間)

心身ともに安定の“今”を維持できているなら、老後の

生性の準備またはプランをたてておくといいと思う。HIVで老後のパイオニアがないので(データが少くない)、何が起きてもいいように準備はしたい！(30代、男性、同性間)

明るく楽しく、元気よく、清く正しく美しく、自分らしく、笑顔の”フレア”で「我が人生、最高成り」と笑顔で最期は、生き活きと旅立つ→生き切る・生き抜く→から、生きるで！！(30代、男性、異性間・同性間)

今とても仲のいい友人でもいつ離れるかわからない。敵になる可能性もある。カミングアウトは慎重に。たとえ陽性者同士であろうとも。静かに楽しく暮らしていきたいだけ。(30代、男性、同性間)

HIV陽性者どうしの知人がいるとやはり気持ちは楽です。調査おつかれさまです。(30代、男性、同性間)

克服出来ない障害はないと思う。どんな人の人生にも困難な時はある。それがたまたまHIVだけ。いつか完治する時代がくるまでは、今の治療あることに感謝してベストをつくしていきましょう。(このようなアンケートは大変貴重で配慮あるものだと思います。ありがとうございます)(30代、女性、異性間)

陽性者の人たちへ。最近、告知を受けた際は、マイナスなことばかり考えていましたが、医療のお陰で社会復帰ができました。だから告知を受けたからといって、落ち込まずに少しずつでも前向きに考えていけば、きっと良くなります。1人で悩まずにDr. Ns. SW等に相談すること！(40代、男性、同性間)

陽性者の人は、きちんと治療してほしい。仕事とキャリアを身に付け、体力を付けて、普通に生活できることを世に示して下さい。そすれば、差別もしだいになくなると信じます。(60代、男性、血液凝固因子製剤)

研究者の方々へ⇒こうした大規模な調査に参加させて戴く機会が得られたことが大変嬉しく感謝しております。・一般(HIVに感染していない)の方々へ⇒自分の生活と“関係ないもの”、あるいは“関わりたくない”ものが日常生活に入りこんでくる…これは確かに恐怖かも

知れません。僕も自分が感染していなかったら同じ考えだったと思う。ただ“感染した人たち”と安易にひとくくりにせず、それぞれの“人となり”を知ってもらえるような機会があれば、ちょっとだけ心に灯がともるかな、と思っています。・他のHIV陽性者の人たちへ⇒まずは自分の管理(健康管理を中心に)をきちっと確立させてほしい。自分にとって“今のオレはまあ元気だな”って思える、その状態をできるだけ長くキープできるようどうしたらいいかを考える。それこそが、いつも幸せを感じられる秘訣じゃないかな？お互いがんばりましょうぜ！(50代、男性、わからない)

辛いことを言われたり、されたりしても、いつまでもそのうらみやつらみに執着するのではなく、「幸福に過ごすことこそが最大の復讐である」(40代、男性、同性間)

2. 治療、服薬、HIVに関すること

くすりをしっかりのめば健康でいられる。HIVのうたがいがあると感じたら検査をして欲しい(20代、男性、同性間)

生きていることに感謝です。毎回笑顔で声をかけてくれるDrとNsには感謝してもしきれません。まだまだ自分自身に負けてはいけない、頑張らないと思います。不安はありますが、何ら変わらない毎日で病気が分かってから感じた絶望以上に今は幸せを感じられるようになったと思います。いつか完治してくれる未来が来ることを期待します。(20代、男性、同性間)

HIVとAIDSの違いが理解されていないと思う。HIVの治療に関しての一般的な認識、理解が、現状の治療の進捗などされていない。ほかの慢性疾患と同様に生活できる病気と認識されれば、検査を受ける人が増え、感染を防げると思います。(50代、男性、同性間)

U=Uのアピール等、ちゃんと服薬すれば今までと変わらず、少し工夫すると生活できるし、ハッテンなども少し配慮すればリスクはほとんどないと思います。白黒つけるのがこわいと思いますが、いつまでもグ

レーだと、自分の思いと違うこと(感染拡大等)につながるので、無料の検査を進んで受けて、自信をもって人生をたのしんでほしいと思います。(50代、男性、同性間)

拠点病院以外の3次救急規模のHPに入院したことがあります。(インフルエンザで。)血液検査でキャリアであることは分かっただろうと思ひ、最初の診察できお歴を聞かれたので、ごく普通のテンションで「HIVキャリアです。クスリでコントロールできています。」と話したら、担当した医師はサラッと「コントロールできているんですね。」程度のリアクションでしたので、病床数が多いHPであれば、それほど引かれないよと伝えたいです。告知された時のことは今も覚えてて、思い出すと精神状態は不安定になります。(30代、男性、異性間・同性間)

検出以下の人は他人への感染力がない事を知ってほしい。入職時や定期検診にHIVをやれという人が多いが、全く無意味である事を知ってほしい。HIV患者の電子カルテにはしっかりロックをかける様にしてほしい。病院で働いていたのでカルテを見られ全職員にアウティングされ、エレベーター乗せてもらえない等した。(40代、男性、同性間)

HIVという病気が「汚らしい病気だ」「HIV=同性愛者」と思われることがある。どの様な病気でも病気には変わらない訳で、区別されても差別されるのはおかしい。誰も感染したくて感染した訳ではない。デリケートな問題だけに、取り扱いは難しい部分はあるが一步踏み込んで陰性者と同様の話し方になれば良いと思う。(30代、男性、同性間)

HIVという言葉だけが一人歩きし、危険さばかりが強調され、薬の服用によりきちんと症状がコントロールされ、感染のリスクがないという事をもっと声高に伝えてほしい。(50代、男性、同性間)

HIVが人からうつる。1回でうつる。ぼくはくすりをのんでいるから今セックスしてもたぶんうつらないと思う。でもかんせんしたとわかってから今まで1度もしてない。もう精神的にできない。HIVが世界から

なくなっほしい。エイズにならないとかではなく、HIVがくすりでなくなっほしい。なおるくすりがほしい。(30代、男性、同性間)

医療機関によっては、まだ感染者の受診拒否が有るので、治療で感染しない状態の人も居るので、もっと知って欲しい。(60代、男性、同性間)

HIV陽性になったら命は短いと思っていたが、医療機関に通院し、薬を使用することで平常な生活が送れる。まずは検査をし、医師の指示に従うことが大事だと思う。(40代、男性、同性間)

40以上の人は成人病に注意を。HIV以上に成人病が問題となってゆきます。(50代、男性、同性間)

インフルエンザよりうつりにくいのにイメージがわるすぎるし、性病だからちょっとはずかしい。(30代、女性)

体調が悪い時は早期受診する。おかしいと感じた時は血液検査を受ける。公的機関に相談する。更生医療を申請して負担を減らす。(70代、男性、同性間)

治療薬が早くできる事を期待してます。(40代、男性、同性間)

治療が始まれば普通の生活を送れる。年齢が上がるほど、薬等の制約がありそうで不安。(40代、男性、同性間)

LGBTQの方だけではなく全ての人々にとって身近な感染症であることを受け止めてもらいたいです。(40代、女性、異性間)

HIVの薬のことを考えると、海外転勤出来ない。(40代、男性、同性間)

先日、陽性の友人が、投薬によりウイルス、免疫力等がコントロールされている旨の紹介状を提出したにもかかわらず、感染を理由にヘルニアのOPを拒否された。また、HIV陽性ということで就職面接すら受け

させてもらえなかったという。陽性者に対して理解があるのは専門の医療関係者か、その支援活動に関わる方々のみで、一般の医療機関や、ましてや一般人においては HIV 感染者への理解などないに等しいと思われる。私は感染の告知をしなくてすむ範囲内で、ひっそりと普通の生活を送るつもりである。法律や社会が陽性者に寛容になったとしても、健常者の心の中の偏見は消えることはないだろうから。(50代、男性、同性間)

まだ薬の使用をはじめたばかりなので、気持ちの整理がついていかない状態ですが、病院の方にとても優しく接して頂き、不安な時も休まる事ができたので、本当に感謝しています。陽性と分かった時、誰にも言えなかった分、いまの気持ちをお話できる先生がいてくださった事が、いま前向きに薬を続けられるモチベーションになっています。そうゆう環境作りをすることが大切だと思います。(30代、男性、同性間)

薬の副作用で体調不良や、ストレスを感じやすい。(50代、男性、同性間)

現在でも薬の副作用で苦労しています。同じ HIV 陽性者でも副作用に対する理解が得られる事が少なく、逃げだ甘えだといわれ悲しい思いをした事があります。体調のコントロールが難しく、仕事を探すのにも苦労しています。薬を飲めば健康な人と変わらない生活を送れるというイメージが自分にとって不利になっているのではと考えてしまう事もあります。(40代、男性、同性間)

自分は ** 県住みで、都会と田舎の間くらいのところです。都内で信頼できる医者も見つけれ、家族も理解があり、服薬も1日1回。とくにストレスを感じることなく暮らせています。ですが、地元の病院に行くときは、やはり、持病はなるべく伏せます。地方やもっと田舎の人は、もっと気を使うことが多く、さらに大変だろうなと思います。せめて医療従事者だけでも全国的に同じレベルで、意識が高まるといいなと思います。(30代、男性、同性間)

早期に完全に HIV ウイルスをなくする薬ができると

いいですね。(50代、男性、異性間)

3. 偏見、差別、知識に関すること

治療を行いウイルス量が検出限界未満となれば、他の人に感染することがない、ということが世間にもっと周知され、偏見が無くなればと願っています。(30代、男性、同性間)

HIV に対する認識や知識を正しく理解して偏見が少しでもなくなると、変な罪悪感を抱かずに過ごしやすくなるのかなと思います。現状、病院の方以外誰にも病気のことは言えていないので、いざケガや他の病気になった時がとても心配です。(40代、女性、異性間・わからない)

まだ偏見があると思います。それは、どんな病気なのかをきちんと知らず、勝手なイメージがまだ一人歩きしてると思います。偏見をなくすには、知ってもらうのが一番ですが、なかなか声もあげずらい現状だと思います…。(30代、女性、血液凝固因子製剤の二次・三次感染)

自分もかつてそうでしたが、HIV に感染してもきちんと治療を継続していけば、エイズを発症せず、人並に暮していけること、他人に感染させる危険性がなくなること、これらのことは知りませんでした。一般の人たちは、まだまだ HIV について知らないことがたくさんあると思うので、理解が深まるような取り組みをしていってほしいです。また LGBT の人たちについての理解についても深まれば、HIV 感染者に対する差別偏見などの減少につなげていけるのではと思います。(40代、男性、同性間)

LGBT のみならず多様性を認め合い差別や偏見がなくなる社会を確立してほしい。とくに日本は遅れていると思います。(50代、男性、同性間)

HIV の知識も持たずに言葉の暴力をふるわないでほしい。あなたの横にもいるかもしれない、言えるものじゃないからこそ笑って聞き流しているけど、その時から

友人が1人減ったと思ってる。(20代、男性、同性間)

昔程、感染者についての風当たりは強くなく、生きることには希望を持てる位の風潮になってきましたが、フォビアックな方々の無神経な一言にとっても傷付くことはあります。でも逆に命の有り難たさがわからない者の、馬鹿な、安意で愚直な非難だと考えましょう。感染者はマイノリティ中のマイノリティですが、毎日がサバイバルのようなものです。狩る必要もなく、安全地帯から吠えるだけの中身の無い言葉に、耳を傾ける必要はありません。孤独にならず、笑って過ごせるよう勤めましょう。(40代、男性、同性間)

昔に比べるとLGBTに対して意識は持ってもらっていると思うのですが、一部の人達の差別、偏見は無くならないと思います。いつか日本でも、同性が結婚出来たらいいなあ~と思います。(30代、男性、同性間)

同性愛、HIV陽性者について徐々に理解が深まってきたりとさまざまなメディアで聞くこともありますが、実際はそのようなことは全くなく、特に地方では今だに偏見も強く、肩身の狭い思いをしています。もちろん理解してくれてる人もいますが、気持ち悪いという人もたくさんいるので中々、セクシャリティを話せずにあります。私は理解して欲しいとは思いません。ただただ、普通に接してほしいです。(30代、男性、同性間)

日本に住む大半の人は、今だにHIVは他人事で、一向に差別や偏見がなくなるのがもどかしい。特に医療従事者の無知、偏見の強さにはうんざりさせられる事が多く、プロ意識をうたがいます。(40代、男性、同性間)

知識を得ることがとにかく大事です。知っている知らないでは天と地の差があります。陽性者、一般の人拘らず、HIVがどういうものか知識を持つだけで生きやすくなるかと考えています。私自身、知らなかったせいでかなりヒドいめにあったので、知ることで自分の身を守ることが出来ます。もっと生きやすい世の中になる事を願います。(40代、男性、同性間)

血液製剤感染者。社会の偏見に対し、感染を隠すことで耐え忍び、二十歳まで生きれば御の字と思いい降は”サッカーのロスタイム”位のつもりで生きてきたが、今や”ロスタイム”の方が長くなってしまった。幸い発症こそないが、持病の事もあり、パートナー(又は配偶者)を得る事もなく随分孤独に生きてきた。感染さえなければ、とっくに配偶者も子も得て家庭も持っていたら(お見合いの話も複数回あったが、感染のこともあり、断ってきた)。今となっては考え過ぎかも知れぬが、病をうつす恐れと紹介者への迷惑を考えたら。なかなか死なぬようになったのも、良い世の中になったと思う反面、ある意味辛い。フィジカルはともかく、メンタル面はまだ辛い病・世の中である。(40代、男性、血液凝固因子製剤)

HIVの治療環境が向上し、死なないことや、U=Uが新しいトピックではありますが、非感染者へこの情報が、残念ながら伝わっておらず、いまだに旧来の病気のイメージが払拭されていないように感じています。(40代、男性、同性間)

たまに、HIV陽性者の人を「血液が汚れている人」と考える人が居る。それは、かつて、献血に協力しようと、グループ行動に誘われた時、私自身は献血できなと言えない状況の時であった。たしかにそうではあるけれど、汚れ物を見るような目線で見る事は、なるべく止めて欲しい。(60代、男性、同性間)

HIV陽性者同士、仲良くして欲しい。障害の等級などで差別しないで。働いて欲しい。幸せになって欲しい。回復して欲しい。(40代、男性、同性間)

薬を飲んでいれば普通に生活できます。このアンケートを読んで、将来、老人ホームに入ることが難しいのかなと思いました。他にもっと難しい病気は多々あると思いますが、長い年月を経ても、まだこの病気には偏見があると感じます。人前では言えない病気であることが残念です。(50代、女性、異性間)

みんなでお金を出しあって、または企業の援助をもらいU=Uを広めたい。大たい的に広めたい。はやく、へん見をなくす社会にしたい。へん見がなくなればか

なり生きやすい人生になるはず。(50代、女性、異性間)

別に麻薬やったからって人間に差ができるワケじゃないし、深刻になる必要はないと思う。ゲイの人にいっぱい知人がいるけれど、どれもいい人。差別してる人の気がしれない。もっと人間は自由でいいと思う。差別する人は、心が偏見のかたまり。私からすれば、そんな人間の方が異常者で病気だ(まる)(40代、女性、無回答)

多様性、LGBT、HIVの理解推進活動、差別、偏見、排除、冷笑。不利益にならないような社会作りを…カミングアウトしても、アウティングされない社会作を…求めたいです。(30代、男性、同性間)

自治体や国の支援、医療関係者やボランティアの人たちのおかげで、以前と変わらないくらしができていくことに感謝します。HIVに対する世間の意識はきびしいので、たぶん一生、この病気のことを家族と友人以外に話すことはないでしょうけど、いつか偏見がなくなる日がくることを願っています。(40代、男性、同性間)

ガンなどと同じ様に、病名を出しても受け止めてもらえる世の中になってほしい。私が発症して20年以上経ちましたが、治療法などは進んでも、まだまだ社会的に誤った病気の理解をしている人が大多数だと思う。もっと正しい情報が拡散されることを祈りたいです。(50代、女性、異性間)

4. 予防や検査に関すること

くすりをしっかりのめば健康でいられる。HIVのうたがいがあると感じたら検査をして欲しい(20代、男性、同性間)

もし、あやしいと思ったら、検査して下さい。自分は検査をせずエイズ(いきなりエイズ)まで、いってしまいました。検査結果を知るのは怖いと思います。自分も恐くて検査には行ってませんでした。でも初期だんかいで発見出来れば、それは幸いな事です。自分は

CD4が20で、ウイルスが3億(?)で見つかり緊急入院でした。今は医療も進み死の病気ではないので、必ず助かります。今の自分はCD4が*** (350-400)でウイルスが** (検出限界以下)です。告知されてからの心の病は最初はどん底ですが、時間がかいけつてくれます。あやしいと思ったら、まずは検査して下さい。(40代、男性、同性間)

危険なのは陽性者ではなく陽性の可能性があるのに検査しない事であるということを知ってほしい(30代、男性、同性間)

発症して病気に苦しんでいた期間は本当につらかったし不安でした(色んな病気に次々にかかるため)定期的な検査で発症前に治療開始できていたらと悔やんでいますし反省しています。(30代、男性、同性間)

U=Uのアピール等、ちゃんと服薬すれば今までと変わらず、少し工夫すると生活できるし、ハッテンなども少し配慮すればリスクはほとんどないと思います。白黒つけるのがこわいと思いますが、いつまでもグレーだと、自分の思いと違うこと(感染拡大等)につながるので、無料の検査を進んで受けて、自信をもって人生をたのしんでほしいと思います。(50代、男性、同性間)

私はエイズを発症し、障害者手帳1級を保持していますが、服薬により仕事や日常生活に全く支障なく暮らせており、大変ありがたく思うとともに、わたしののような例もあることを特に陽性告知をされて落ち込んでいるような方々に知ってもらいたい。(50代、男性、同性間)

告知を受けたのが**才の時で目の前真っ黒になりましたが、数年後病気のことを理解してくれるパートナー(夫)が現れ、結婚できたし子供ももうけることが出来て今はとても幸せ。きちんと薬を飲んで、性交もコンドーム使用で、一般の人と変わらない生活ができていたので、感染が分かって落ち込んでいる人も希望をもって毎日明るく生きてほしいです!(40代、女性、異性間)

HIVの予防は必ずしたい、するべきだと思う。ただもっとHIVの理解を広げていきたい。この病気をもっている、楽しくいられるし、結婚もできる、子供もうめんです！同じ人間で、HIVをもっている人もすばらしい人はたくさんいます！！医療従事者(HIVに関わる)の皆様、私たちのために研究を重ね、すばらしいくすりを作ってください。本当に本当に感謝です。(30代、女性、異性間)

5. 人生や生活に関すること

きちんと服薬していれば、好きな物を食べて、好きな所に行けて、好きな人と過ごせて、好きな事が(ほとんど)出来ます。皆と同じくらい、不自由かつ自由でまあまあ楽しい人生です。(40代、男性、同性間)

今はいろいろあったけど、逆にあってよかった経験もあるので、人生いろいろだなあとと思います。困っていることも特に今はないし、理解してそばにいてくれるパートナーにも出会えたので(8年)、自分は幸せだと思う。フツーにくらせますよ、逃げないでーと。(40代、男性、同性間)

感染がわかってから、人生について深く考え、どの様に世の中に貢献していけるのか？と思い、前向きに生きていけるようになりました。反面、恋愛には少し奥手な自分がいます。(40代、男性、同性間)

HIVについて知らない事が多くこういう事も大丈夫なんだと思う事がありました。この事には触れないようにと思い、未だに知ろうとしない自分がいます。人には知られないように、とひたすら隠して生活している状態です。これからも知られないようにと思っていますが、もし、知られた時の事を思うと恐怖しかありません。(60代、女性、異性間)

親身になって治療して下さった医療関係者との出会い、とても感謝しています。(それ)以外は何も得るものがなく、残念な人生だったと一般の方に伝えたい。薬の進歩で、発症当時よりも死に直結した病ではなくなったが、健康・普通の生活・友人関係・仕事等失う

ものが多かった。(50代、男性、同性間)

たった1回の興味本位での行為が人生を大きく変えました。後悔していますが、前向きに生きる決意で積極的に物事に取り組んでいます。一度きりの人生、最後まで頑張り、目標をもって有意義な日々を過ごしています。万事塞翁が馬です。(70代、男性、同性間)

年を取るにつれ、介護の複雑さを身近に深く考えるようになってその前に死を考えるようにもなります。自殺は周囲に深い傷を与えるので簡単には踏み切れないし――。自失となります。(60代、男性、同性間)

病気が発覚するとショックで仕事を辞めたくなるが、一時的にキツくても、なるべく仕事を辞めず仕事を続けて、安定した収入を確保した方が良い。(40代、男性、同性間)

☆陽性になったら前向きに楽しく生きること。いつ病状が変わるかも知れないので後悔しないこと。(ありがとございました)(60代、男性、同性間)

自身の生活の基盤が整っていない状態で、病気(HIV含)になると、“生きる”事をあきらめなければならないと感じることがあります。質問の中にHIV薬をのんでいればウイルス数が××以下なら性交をしても大丈夫？とあり、以前、HIVの友人が、そのような事を言っていてビックリしました。軽らく考えすぎだと思います。感染後は、セックスに感しては、後ろ向きな自分がいます。(50代、男性、同性間)

仕事、どれも可能となりました。先日、就職時の勤ム先への病名開示もいらぬとの裁判判断も出ました。生命保険の加入制限や団信の制限はありますが、希望をもっていられるようにこの20年がかわってきたと思います。(40代、男性・異性間)

本当は、陽性者の人とも一般の人とも、病名をオープンにしたうえでもっと積極的につながりたい…が、どうしてもその勇気が出ない、あるいはアイデアが出ないのが実情です。(50代、女性、異性間)

長生きができるようになったとのことだが、先達者が高齢期にどのような生活をしているか、どのような問題が起きているか、情報が少なくどのような対策をしていくかを考えるのが難しい。(30代、男性、同性間)

HIV陽性がわかり、もう24年も経過したが、途中ドラッグを使用したりしてCD4が32まで低下したこともあったが、今現在はウイルス量も検出限界以下でCD4も750まで上昇し、仕事も充実して健康な日々を送っています。感染がわかってもしっかり向き合っていけば、長生きできる時代になって本当に良かったと思います。ありがとうございました。(40代、男性、同性間)

6. これまでを振り返って感じたこと

2か月前にCD4 362～から治療をスタートし、現在障害者手帳3級を取得。自覚症状、投薬の副作用もなく治療のスタートとしてはこれ以上なくめぐまれた状況だと思います。HIV検査をうけるきっかけをくれた、今のパートナー。そしてこの病気を受け入れてくれたパートナーの為に生きていこうと思っています。生きる意味が分からないと本当におそろしい病気だと思います。(30代、男性、同性間)

HIV陽性がわかり、もう24年も経過したが、途中ドラッグを使用したりしてCD4が32まで低下したこともあったが、今現在はウイルス量も検出限界以下でCD4も750まで上昇し、仕事も充実して健康な日々を送っています。感染がわかってもしっかり向き合っていけば、長生きできる時代になって本当に良かったと思います。ありがとうございました。(40代、男性、同性間)

ここ近年で発症して良かったです。20年前なら死んでました。(60代、男性、同性間)

わたしが告知されたときは、5年くらいの寿命かと思って絶望的になりました。今は普通の生活ができますし、予防も治療もできます。あとはガンのように、親しい人に打ち明けられるようになってほしいと思い

ます。(50代、女性、異性間)

血液製剤感染者。社会の偏見に対し、感染を隠すことで耐え忍び、二十歳まで生きれば御の字と思いい降は”サッカーのロスタイム”位のつもりで生きてきたが、今や”ロスタイム”の方が長くなってしまった。幸い発症こそないが、持病の事もあり、パートナー(又は配偶者)を得る事もなく随分孤独に生きてきた。感染さえなければ、とっくに配偶者も子も得て家庭も持っていたら(お見合いの話も複数回あったが、感染のこともあり、断ってきた)。今となっては考えすぎかも知れぬが、病をうつす恐れと紹介者への迷惑を考えたから。なかなか死なぬようになったのも、良い世の中になったと思う反面、ある意味辛い。フィジカルはともかく、メンタル面はまだ辛い病・世の中である。(40代、男性、血液凝固因子製剤)

今現実社会で陽性者として会社で働けてとても幸せです。来年10年目を迎えます!!かくさず、自分の道を進んでください!!ありがとうございます!!(60代、男性、同性間女性、異性間)

HIV陽性になって、辛い事もりましたが、良かった事、楽しかった事、嬉しい発見等も沢山ありました。ネガティブになりがちな所もありますが、陽性者らしくポジティブに生活していければと思います。ありがとうございました。(40代、男性、同性間)

同性愛者の感染は自業自得で診ないという医師の報道も以前ありましたが、エイズが始めて日本(東京)に入ったと知り東京では避けて1995～1999年** (地域)在住中も気を付けて** (地域)へ帰り、行動に注意してましたが、2012年に発症し重度肺炎で動く事もできず医師に安楽死をと言いましたが、1ヶ月半入院中にしょっちゅうお忙しい中、世間話に来て下さり、今思うと生きる望みを与えてくださったのだと判りました。ありがとうございました。(60代、男性、同性間)

HIVホルダーでも子どもを持つことができるというのを、このアンケートで初めて知りました。そのことが原因でつきあいをちゅうちょしたり、あきらめたこともあったので。もっと早くに(感染時に)知っていたら、

人生変わっていたかもしれません。感染時は絶望感でいっぱい、希望など持てませんでしたが、感染時に普通の生活ができること、寿命のこと、子どもを持つことなどを教えてくれることによって、その後の生活が大きく変わってくると思います。(50代、男性、同性間)

7. 健康に関すること

治療していれば普通に生活はできると思います。ただ色々予測できない事は多々あるので、ストレスをどう対処するかが大切です。(40代、男性、血液凝固因子製剤)

健康面重視の生活・他人に優しくありたい・社会貢献…私自身の今の思いです。(60代、男性、同性間)

薬をのんでいれば健康でいられます。ストレスが一番CD4を下げます。あとは楽しく気をつけて生きること!!楽しく!!それが一番かと。(40代、男性、同性間)

しっかりとHIV～AIDSについて学び、ちゃんと通院し、健康に気をつければ、ほぼ普通に生きていけることの大事さ。社会的な問題は、少しずつよくなると信じ、辺りの人間との関係を持っていけば、HIVと共に生きることはさほど苦しくないよう、がんばりましょう。(50代、男性、同性間)

感染前から熱中していたスポーツを続けて、感染後にも成績を向上させたりできている。正しく治療していれば生活、仕事、趣味など一切制限もなく、楽しく生活できている。治療とともに自分の好きなことに夢中になるのが心身の健康維持には最も重要だと思う。(40代、男性、同性間)

人はいづれ終わるのだから今を大切に楽しく過ごそうと伝えたいです。健康があるとか病気があるとか色々あるけど、今、現在生きているのだから。(40代、男性、同性間)

Webで検索をすると「HIVはAIDSとは違います。」を目にする度にAIDS発症の私としてはとても辛く心配になります。その違いがそんなに大きいのか?これからAIDSの人はどうなるのか?と。発症時の後遺症で関節痛などや、日和見の再発の不安はとても大きいです。(50代、男性、同性間)

陽性者となった人が1人にならない様に誰かが陽性者のそばに居てあげてほしい!!(40代、男性、異性間・同性間)

私は感染しているという事実を時々忘れるほど普通の暮らしを送っています。早期発見で助かった部分もあるので、ぜひ検査にいてほしいですし、もし仮に陽性告知を受けたとしても落ち込まず、仲間と共に生きてほしいです。(30代、男性、同性間)

感染前から熱中していたスポーツを続けて、感染後にも成績を向上させたりできている。正しく治療していれば生活、仕事、趣味など一切制限もなく、楽しく生活できている。治療とともに自分の好きなことに夢中になるのが心身の健康維持には最も重要だと思う。(40代、男性、同性間)

HIV陽性の告知を受けてからの1～2ヵ月は、今後どうなるのだろうか?いつ死ぬのだろうか?という最期を迎えるのだろうか?って考えたり、ネットでいろんな事を調べまくったが、結局答えはでなかった。人によって違うし人間生まれたら遅かれ早かれ皆平等に亡くなるし、HIV感染者じゃなくてもそんな事は分からないのは一緒!体調に大きな変化はないし、薬を飲み始める迄にも気合いでCD4を上げてやるって前向きな気持ちで普段通り生活をしていたら250→270→320と上昇していきました。その後投薬後の初めての結果410でした。次回は500以上にする!って感じで気持ちを上げながら普通に生活しています。野菜を食べるようにしたりお酒を少し減らすなど、健康には以前より気にかけるようになりました。(40代、男性、同性間)

